

発行/ASJ社 年間購読料 6,000円(税、送料込) 1冊1,000円(税別)

a&s

The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

JAPAN

www.asj-corp.jp Nov/Dec. 2019 no.73

■ 特集：ナンバープレート認識の中心はカメラ



第28回 セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW 2020

2020年は
幕張メッセで開催!



詳細はこちら ▶ <http://www.securityshow.jp/>



日本のセキュリティが進化する4日間

2020年 3月3日(火) ▶ 6日(金) 幕張メッセ [1・2・3ホール]

NIKKEI
MESSE
街づくり・店づくり総合展

お問い合わせ先: 日本経済新聞社 イベント・企画ユニット事業部
Tel: 03-6256-7355 info@securityshow.jp

主催 日本経済新聞社



The Perfect Fit for Luxury Retail

比類なき映像技術で優れたパフォーマンスを実現

IDISのビデオソリューションは高級ジュエリーショップからデザイナーズ・ファッションブティック、そして世界中の高級ショップにおいて信頼あるセキュリティを提供します。IDISは、サイバーセキュリティの最先端の技術を使用して信頼性の高いエンドツーエンド(E2E)ソリューションを提供します。

新製品の2MPマイクロドームカメラや受賞歴のあるSuper Fisheyeカメラによる画像分析、NVRそしてVMSソリューションに至りあらゆるニーズにお応えします。



商品に関するお問い合わせは
IDIS Co.,Ltd 日本正規代理店 株式会社セキュア secureinc.co.jp

東京本社 | 東京都新宿区西新宿2丁目6-1 新宿住友ビル 20F
TEL.03-6911-0660 FAX.03-6911-0664

IDIS
One Solution. One Company.

SÉCURE

www.idisglobal.com

目次

特集

ナンバープレート認識の中心はカメラ 22 - 27

連載

クラウドの利点と活用 + FAQ 28 - 31

イベント情報

展示会、プライベートショー日程 35



IPVMダイジェスト	4 - 9
産業ニュース	10 - 18
新製品情報	19 - 21
読者の声	35

広告索引

広告主名 (ABC順)	掲載ページ
Fire & Safety	表四
IDIS	1
SECUTECH TAIPEI	3
日本経済新聞社	表二

次号案内 2020年 1/2月号 (1月10日発行予定)

(誌面の都合上、変更になることがあります)

特集

SECURITY 50

連載

クラウドの利点と活用

a&s JAPAN

©ASJ合同会社 2019年 11-12月号 No.73
The Professional Magazine Providing Total Security Solutions

発行人 小森堅司 DTP サンフィール

a&s JAPANは、Messe Frankfurt New Era Media発行のa&s Internationalをはじめとするa&s各誌の独占翻訳権の特約、およびIPVMの抄訳記事掲載の承諾を得て発行するセキュリティ国際情報誌です。

ASJ合同会社

Advanced Security Journal LLC

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-1ウィン神田ビル10階
電話：03-6206-0448 FAX：03-6206-0452

■広告に関するお問い合わせは
E-mail：komori@asj-corp.jp

■購読に関するお問い合わせは
E-mail：info@asj-corp.jp

■記事情報提供に関するお問い合わせは
E-mail：info@asj-corp.jp

■DM代行サービスおよび電子メール配信サービス
当社では、企業の依頼によりDMまたは電子メールで情報をお届けすることがあります。これらのサービスでは、読者の皆様の個人情報を当該企業には一切公開していません。

secutech

2020年4月22日 – 24
台北南港國際展示館 ホール2
www.secutech.com

セキュリティ、IoT & AIに関する アジアの先進的プラットフォーム

- Secutechは、アジア太平洋諸国からの多数の訪問者が来場し、新たなビジネスパートナーシップを生み、促進することができるハブ的役割を担います。
- メーカー各社が、販売代理店やシステム構築企業と連携し、またテクノロジー企業がOEM / ODMパートナーを見つける機会となる理想的なプラットフォームです。



同時開催イベント

SM  **building**
powered by Secutech

M  **BILITY**
powered by Secutech

fire & safety
powered by Secutech

info security
powered by Secutech

 **messe frankfurt**

IPVM URL: <https://ipvm.com/>

IPVMは、セキュリティと映像監視に関する世界有数の情報提供サイト。

【特徴】

- 5,000件超のセキュリティ技術に関する報告
- 550件超のセキュリティおよび主要映像監視製品のテスト
- 豊富なソフトウェア・ツールによる評価とテスト
- 映像監視関係者向け教育と講座用情報の提供。
- メンバーからのコメントを含めた活発なコミュニティの形成

【有料メンバー】

- 100カ国超1万人以上のセキュリティ業界従事者、関係者

【スタッフ】

- エンジニア、開発者、セキュリティ・システム構築者、サポート・マネージャなど総勢11名

【掲載許諾】

本誌ではIPVMの許諾を得て、ウェブ上で無料閲覧することができる内容だけを掲載しています。閲覧するにはIPVMとの有料メンバー契約が必要です。IPVMに掲載されている内容は、一切無断転載です。



IPカメラのマウント対決 アクシス社、ボッシュ社、DAHUA社、Hanwha社、HIKVISION社、VOVOTEK社

ジョン・スキャンラン 著

<https://ipvm.com/reports/mount-shootoutcheck>

どのメーカーのマウントが最高あるいは最悪のマウントなのか？アクシス社、ボッシュ社、DAHUA社、Hanwha社、HIKVISION社、VOVOTEK社からIPカメラ・マウント50台と関連部品を購入してテストした。今回のテストには、ペンダント、ポール、埋め込み型、壁/天井取り付けなどの複数の取り付けタイプが含まれている。マウントの秀逸性を評価する項目と基準を下記の通り設定した。

- 設置が簡単で迅速にできるか？
- マウントを使用して美観が向上するか？
- どんな種類の取り付け金具が含まれているか？

- 説明は役に立ち、分かりやすいか？
- マウントは標準電気型になっているか？
- マウントにテンプレートが含まれているか？
- マウントには非脱落型ネジを使用しているか？
- 箱に部品の写真を掲載しているか？

各マウントまたはコンポーネントを、不良/平均/良好のいずれかで評価している。テストには、結果ベースのチャートと情報と幾つかのビデオ映像を掲載した。



Theアクセス・コントロール・コードIBC, NFPA 72, 80 & 101の解説

ブライアン・ローズ 著

<https://ipvm.com/reports/access-codes>

アクセスについて基本的な金言がある。何よりも生命の安全である。しかし、該当する全てのコードが守られているかをどのようにして確認するのか？基本的な金言を理解するのは簡単だが、規則には多くの潜在的な変種が存在し、アクセス・コントロール専門家は多くの変種とその適用方法を理解する必要がある。

本稿ではコードが必要な理由に加えて、次のようなアクセス・コントロールを指示する主要なコードについて調査した。

- IBC: 国際建築基準
- NFPA 72: 火災警報器
- NFPA 80: 防火扉
- NFPA 101: 生命の安全

また、本稿では開扉に適用されるコード、より広範なコードのローカル例外を見つける方法、およびコード・アプリケーションに影響する特定のドア機能を見つけるために必要な3つの手順についても説明する。



AI顔認識企業パラヴィジョン(Paravision)社の概要

ジーン・パットン 著

<https://ipvm.com/reports/paravision>

旧社名:エヴァーAI(EverAI)社のパラヴィジョン社は、NIST (National Institute of Standards and Technology: 米国標準技術研究所)テストで第1位を獲得した「米国唯一のミッション・クリティカルな(任務や業務の遂行に必要な不可欠な要素)を供えた顔認識」供給企業だと名乗っている。

IPVM誌では、彼らの提供する製品と市場への参入を理解し、NIST顔認識の性能に関連するマーケティングでの注目点を調べるために、同社にインタビューした。本稿では、下記項目について質問した。

- 同社の概要
- 同社の市場参入
- 同社性顔認識システムの特徴
- 同社がNISTテスト結果を引用する理由
- 解析はどのようなハードウェアで実行するのか
- 同社のOEMパートナーは誰か

●同社とAnyvision(エニーヴィジョン)社との比較

パラヴィジョン社の概要



2013年に米国カリフォルニア州サンフランシスコで設立されたパラヴィジョン社はCEOダグ・アレイ氏が指揮を取っている。同氏は2016年にCRO(最高収益責任者)として採用され、2018年にCEOに就任した。同氏は、ハイテク企業の設立と製品管理そして事業開発という経歴を有している。

パラヴィジョン社報告書では、従業員数が

40人以上で、その約25%をディープ・ラーニング研究者が占める。同社は、消費者向け分析から企業向けOEMアプリケーションへの転換の一環として、社名をエヴァーAI社から現社名に変更した。



フランス、GDPRに基づいて学校の顔認識システムを違法と宣言

チャールズ・ロレット 著

<https://ipvm.com/reports/france-ban>

フランスは、学生の同意があったとしても、学校のアクセス・コントロール・ソリューションとしての顔認証を事実上禁止した欧州初の国となった。スウェーデンでは2019年8月に許可している。この決定は、ソリューションを販売している企業に新たな打撃を与えている。本稿では、下記の項目とその広範な意味を検証する。

- 背景
- ソリューションの説明
- ソリューション提供企業ススコ社からのフィードバック
- CNILからの回答・GDPR準拠ではない
- スウェーデンとの比較

- GDPRの発言内容
- 即時の影響
- プライバシー運動家の誓約
- ローカルレスポンス



2019年7月、フランス地方当局は、フランスのデータ保護機関であるCNILにデータ保護影響

評価を提出し、高校2校(ニースとマルセイユ)で顔認識アクセス・コントロール・ソリューションの承認を要求した。



IPVMは800以上のテストを実施しその結果を掲載中

<https://ipvm.com/tests>



IPVMは、記録された動画ファイルであるビデオ・スクリーンキャスト、品質比較、長所と短所をレポートするセキュリティ&

映像監視のテストを提供している。対象は複数企業の製品群だけでなく書く社の個別製品で、公正中立を期するため購入して実施している。そのため、世界で最も包括的なテストである。



最大の課題 低照度問題2019年版

イーザン・エース 著

<https://ipvm.com/reports/big-low-light-2019>

「良好な低照度画像を取得する際に直面する最大の課題は何か?」の質問に対して、150人以上のシステム構築者から回答が寄せられた。回答内容は2016年とほぼ同様で、特に統合されたIR範囲とホットスポットについてやや否定的だった。統合型IRの使用が増え続けており(統合されたIRカメラ使用統計2019を参照)、この課題に多くのユーザが直面している。

さらに、モーション・ブラーに関する苦情は2016年の調査では重視されていなかったが、2019年には共通の課題になった。これは、高レベルのモーション・ブラー(motion blur: 物体被写体のブレ)を引き起こす可能性がある高レベルのDNR(デジタル・ノイズ・リダクション)の増加傾向による可能性がある。詳細については、カメラDNRガイドを参照していただきたい。

●限られたIR範囲

システム構築者の最大の不満は、統合されたIR範囲だった。統合IRは現在、ほとんどのカメラに搭載されており、40m以上の仕様が一般的だが(IPVM Camera Finderの2,400+カメラを参照)、テストでは、実際にこの範囲に到達するモデルはほとんどない。

●不均一なIR網羅率とホットスポット

次に、IR網羅率が問題として挙げられ、特に近距離と暗闇での

露出過剰を指摘している。これらに対するコメントは、「対決!8メガピクセル/4K固定レンズ」や「対決!4メガピクセル・カメラ」などのテストと一致している。

●ノイズの多い画像

ノイズの多い画像についてもストレージ費用の増加と画質低下が伴う共通な問題である。

●物体の映像取得

一部のシステム構築者は「映像のボケ」として指摘していたが、低照度での動きを課題とするべきだろう。

●顧客の期待

システム構築者は、照明状況を改善するための予算、または低照度性能に優れたカメラに投資することに対して、顧客から理解を得ることの難しさを指摘していた。

●低照度でのカラー表示と統合IR との対決が登場

IPVM誌は既に上記の問題解決を具体的な解決を検討しているメーカー10社20機種以上のカメラによる「対決!低照度でのカラー表示」を済ませている。今後「統合IRの拡張テスト」を実施する予定だ。



nFlux社 企業概要

ジーン・パットン 著

<https://ipvm.com/reports/nflux>

Amazon、Google、Microsoftから資金提供を受けたnFlux社の事業について、業界で最も情報化された映像解析を構築することが同社の使命だとIPVM誌に語った。

nFluxAI社への取材で、同社映像解析品や市場参入の経緯、成功する情報化APIプラットフォームを構築するための課題を詳しく理解することができた。本稿では下記の項目を確認した。

●nFlux社の概要

●同社の提供する映像解析

●同社の対象先

●対象先の市場規模

●同社の市場参入方法とは

●解析のトレーニング方法

●成長する上での最大の課題は何か



■企業情報

2019年に米国カリフォルニア州ロサンゼルスで設立されたnFlux社は、共同設立者兼CEOセイド・サジャディ(Seyed Sajjadi)氏が指揮を取っている。同氏は、NASAを含む米軍資金による研究会社

で、AIと機械学習、他の焦点を合わせた重要な研究開発経験を積んだ。

nFlux社に在職する従業員15名は、主にAIとソフトウェア・エンジニアリングに焦点を当てて、米軍資金によるロボット工学と機械学習プログラムの実務経験もある。

nFlux社の資金は、Amazon社Alexa Fundを通じて受け取っており、またMicrosoft社とGoogle社のスタートアップ・エコシス

テムもその一部だと述べている。資金調達金額は明らかにされていないが、同社は資金調達ラウンドの最終段階にあり、ライセンス販売を通じて2019年に収益を上げていると述べてい

る。Alexa Accelerator Nightデモでは、2019年10月までの過去4か月間にSaaS収益で40万ドルの収益を報告し、2021年までに年間400万ドルのライセンスが継続すると予想している。



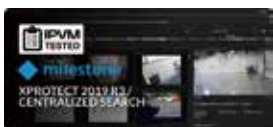
WDR(ワイド・ダイナミック・レンジ)入門

イーザン・エース 著

<https://ipvm.com/reports/wdr-guide>

WDRを理解することは、厳しい条件で高品質の画像をキャプチャするために重要となる。ただし、実際の標準がなければ、実際の性能が劣っていても、どのメーカーも自社製WDRの優秀さを誇張することができる。本稿では、下記の項目に分類して解説する。

- 2019年WDRの現状
- WDRとは何か
- カメラWDRの課題
- 解決策としての多重露出WDR
- 異なる露出数
- 真のWDRカメラではディテールを効果的に改善
- WDRの測定方法
- デシベル対WDR比率の測定
- メーカーWDR仕様の解釈
- 解像度対WDR
- 多重露光により低光量の性能が低下する場合
- 偽りのWDRテクニック
- バックライト補正(BLC)
- デジタルWDR(DWDR)
- モデル解像度の限界
- メーカーによる用語の混乱



マイルストーン社製XProtect 2019 R3をテスト

ジーン・パットン 著

<https://ipvm.com/reports/milestone-2019-r3>

マイルストーン社はここ数年、重要な新しいソフトウェアのリリースに問題を抱えていた。現在、同社は「XProtect 2019 R3について全てのデータに対応する1つの検索プラットフォームであり、さらに迅速、簡単、かつ効率的な調査」と称賛している。

本稿では、XProtect 2019 R3をテストし、これらの更新によってVMSがどのように改善されたか、テスト中に見つかった問題(9分間の賛否両論の評価のスクリーンキャストなど)を検証する。

- 新しい集中検索はどの程度機能するか
- まだどのUX問題が存在するのか
- アダプティブ・ストリーミングはどの程度機能するか
- アダプティブ・ストリーミングにはどのくらいの構成が必要か
- Hikvision社製顔認識プラグインはどのように機能するか
- サードパーティ・プラグインにはどのような問題があるのか
- 新しいパスワード管理ツールはどの程度機能するか
- サイバー・セキュリティ構成の変更点は何か
- XProtect 2019R3へのアップグレードにはどのような問題があるか

XProtect 2019R3はXProtect 2019 R1テストのフォローアップであり、サーバの改善はあったが、UXと機能の更新は最小限だった。



90社超掲載企業名鑑

IPVMチーム 著

<https://ipvm.com/reports/profile-directory>

IPVMはセキュリティ業界の大企業情報を定期的に網羅していますが、それ以外の企業の基本情報と分析を提供するために各メーカーの企業情報を掲載している。掲載社数は90社以上ある。

なお、さらに詳しく知りたい場合は、メール(info@ipvm.com)でこのディレクトリにコメントを投稿していただきたい。



共連れ アクセス・コントロール入門

ブライアン・ローズ 著

<https://ipvm.com/reports/tailgating-tutorial>

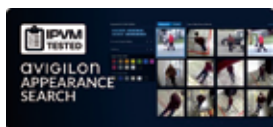
「テール・ゲーティング」と呼ばれるアクセス・コントロール・システムのほとんどは、簡単な悪用に対してでも脆弱だ。実際、他の人のためにドアを開ける際の親切な行為が、しばしばアクセス・コントロール・システムのセキュリティを危険にさらす。

本稿では、最も一般的な原因である「テール・ゲーティング」での対処法やシステムを最小化するための5つの留意点を検討する。

- 「ホールド・オープン」警報
- 回転式改札口/回転ドア
- マン・トラップ/エアロック
- ピギーバック検出器/分析
- サインと警戒

問題点

「ピギー・バック」とも呼ばれる「テール・ゲーティング」は、アクセス権ユーザがドアを開けて、ドアを開いている間に1人以上の人物がすぐに通過できる状況を表す。誰かのためにドアを開けたままにしておくと、問題が何気なく発生する可能性がある。また、誰かが急いでドアを開けた場合にも偶発的に発生する。稀にだが、最も危険なのは、誰かが有効なカード所有者の背後に意図的に忍び込んでセキュリティ・システムを破るといった悪意のある行為だ。このような共連れにより、施設全体が安全でなくなる可能性がある。



AVIGILON社 Appearance Searchをテスト

ロブ・キルパトリック 著

<https://ipvm.com/reports/appearance-search>

AVIGILON社のAvigilon Appearance Search(AAS)は、「数時間の映像を簡単にソートして、サイト全体または複数のサイトで特定の人物または関心のある車両をすばやく見つける」ことができると謳っています。しかし、通常の検索に比べて本当に時間を節約できるのか?を調べるためにテストし、以下の項目について調べた。

- タイムラインやサムネイルを使用しての検索は通常のVMSで映像を検索するよりも高速か
- 特定の色による検索は正確か
- 高照度、低照度、IRでどれくらい正確か
- 年齢と性別を正確に分類しているか

- 車両は正確に車種分類が検索されているか

■要約

テストに基づいた外観検索は、タイムラインまたはサムネイル検索のみを使用する場合と比較して、複数のカメラで特定の人物または車両を検索する上で非常に高速な手段を提供している。ただし、年齢、性別、髪の色などの人口統計/個人識別子は、テストではそれほど正確で歯なく、現在非常に一般的となっている統合されたIRでは、対象物が全て白色あるいは灰色で表示されるため、有効性が限られている。



HIKVISION社製 ColorVuのマーケティングはうまい

ジョン・ホノヴィッチ 著

<https://ipvm.com/reports/colorvu-smart>

HIKVISION社製ColorVu(IPVMテスト結果を参照)は、スマートマーケティングの賜物であり、競合他社が学ぶべき教訓があり、評価が高まる傾向にある。本稿では、なぜ、競合他社が見逃しているのか、ColorVuがHIKVISION社の事業をどのように支援できるか、同社のマーケティングにどのような問題があるのかを検証する。

■ColorVuの概要

ColorVuは事実上IPカメラに組み込まれた白色光投光器である。Color LEDには、IR LEDを使用する代わりに、白色光LEDを使用している。

ソニーやアクシス社には過去に類似したモデルが存在し、DAHUA社製Lorexは現在モデルだが、HIKVISION社はColorVu白

色LED標準IR LED opsi2を発明しなかったものの、同社はColorVuのフルシリーズと主要なマーケティング・キャンペーンを開始した。

■なぜ「うまい」のか

ColorVuは実際のカラー画像と「無料」の投光照明を提供するが、既存の製品は一般に白黒のみ、またはノイズの多い/薄暗い色のいずれかとなる。低照度性能は主要な購入基準であり、IRは通常「暗闇」で画像をキャプチャするが、IRには色がなく、露出オーバーなどの制限がある。

カラー(非IR)イメージングは10年で大幅に改善されたが、IRを使用しない画像は通常、2ルクス未満の暗い場面でノイズの多い薄暗い画像となり、多くの場合かなり高価なカメラでの搭載となる。ColorVuあるいは投光照明が組み込まれたIPカメラのカテゴリは、これら2つの間のギャップを埋め、重要なニーズに対応している。

さらに、他の誰も同様のシリーズを提供していないため、このメーカーの背後にある技術は簡単であるものの、HIKVISION社は事実上「ユニークな」立場を獲得した。



ロンバス・システムズ社製カメラとVMSそして解析をテスト

ロブ・キルパトリック、ジーン・パットン 著

<https://ipvm.com/reports/rhombus-vms-2019>

ロンバス・システムズ社は、「業務用途の新標準、クラウド管理映像セキュリティ」を作成し、2019年1月Verkada社製品の2倍の機能を半額で提供すると発表した。

IPVMではロンバス社R2ロンバス・カメラと業務用途ライセンスを購入した。本レポートでは、次の2つの動画を使用して、同社製品の長所と短所を検証する。

- ライブおよび再生ストリーミングはどのように機能するか
- 映像解析はどの程度機能するか
- 映像解析の性能が低下する原因は何か
- エンタープライズVMSの機能は何を装備しているか
- 欠落している一般的なVMS機能は何か

- クライアントUXにはどのような問題があるか
- システム構成にはどのような問題と制限があるか
- カメラのWDRはどの程度機能するか
- モバイルアプリはどの程度機能するか
- モバイルアプリに欠けている機能は何か
- カメラとVMSのセットアップはどれくらい簡単か
- サードパーティのシングルサインオン統合はどの程度機能するか
- ロンバス社製品の機能と価格設定はVerkada社と比較してどうか



Open vs End-to-End Systems: Integrator Statistics 2019

IPVMチーム 著

<https://ipvm.com/reports/open-end-19>

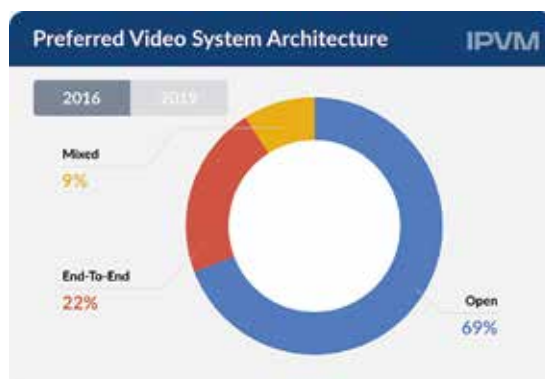
システム構築者に質問した。「ビデオ監視システムの場合、異なるメーカーのカメラとレコーダによるオープン・アーキテクチャと、カメラとVMSが同一ブランドによるエンド・ツー・エンドとどちらを好むか。その理由は何か。

本稿は、オープンvsエンド・ツー・エンド・ソリューション2016レポートの2019年版である。本稿では、システム構築者150人以上からの回答に基づいて統計し、そこから導かれた傾向をレポートする。

■主な調査結果

回答の半分に挙げられているように、オープン・アーキテクチャ・システムの選択は依然として最大の選択だったが、これは2016年のほぼ70%から大幅に低下している。エンド・ツー・エ

ンドのシステム設定の選択割合は横ばいだったが、両方の組み合わせ選択したシステム構築者は9%から24%にほぼ3倍に増加した。





NEC、歩きながらも虹彩認証を可能にする技術を開発

https://jpn.nec.com/press/201911/20191106_01.html

NECが開発したのは、多数の人々が通る改札やセキュリティゲートなどの利便性向上に向けて、歩きながらも高精度に本人認証可能な虹彩認証技術。

虹彩認証技術では、認識対象となる虹彩が非常に小さく、個人毎に異なる虹彩の微小な模様を捉える必要があり、高精細な虹彩画像が必要となる。このため、虹彩認証利用時には、利用者がカメラの正面の決められた位置に静止し、目の位置をカメラに合わせるなど利用者に負担が掛かり、利便性向上が求められていた。

今回同社は、歩いてくる利用者の虹彩を鮮明かつ高解像度に撮像する技術を開発した。さらに、撮像後に行う画像処理を高速化した。これらにより、利用者が歩いている間に認証まで完了できるようになる。今回、この虹彩認証技術と新たに開発した撮像技術を組み合わせることにより、利用者は立ち止まることなく、歩きながらも本人認証を可能にする。

同社は、本技術を2021年度までに実用化することを目指す。

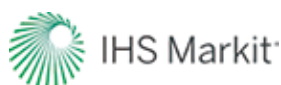
【技術の特長】

1. 虹彩を鮮明かつ高解像度に撮像

通常の歩行速度で歩く人の虹彩を高精細に撮像するために、目の周辺領域(ROI: Region of Interest)の位置を正確に推定する技術を開発した。歩行によって生じる頭部の上下動の幅を考慮し、ROIを推定する。虹彩を撮像する位置を通過する時にROIのみを撮像することで画像データ量を大幅に削減し、従来は困難だった高解像かつ高フレームレートの撮像を実現した。これにより、通常の歩行速度で歩く人の虹彩を、鮮明かつ高解像度に撮像することを可能にした。

2. 大量の画像から虹彩認証に適した画像を高速に抽出

高フレームレートで撮影された大量の画像から、独自の画質指標を基に、虹彩認証に適した画質の画像のみを高速に抽出する画像解析技術を開発した。撮像した画像全てではなく、本技術により抽出した画像だけを認証すればよいため、虹彩認証を瞬時に行うことができる。



セキュリティ技術に関する2019年の年次動向ホワイトペーパー

<https://ihsmarkit.com/Info/1218/security-technologies-top-trends.html>

2019年の年次動向ホワイトペーパーには、各専門家による映像監視、アクセス・コントロール、重要な通信業界の動向が含まれている。

IHS マーケット社は、2018年前半にコビキタス・ビデオを最も革新的な技術の1つとして選定した。公共安全施設では、コビキタス・ビデオの利点を担当者が受け入れる際に、この概念が映像監視と重要な通信技術の統に注目した。

では、2019年の大きな話題は何か? 将来の供給ベースの変更、アプリストア、および緊急時の対応におけるSaaSの使用は、今後の市場動向に関する第9回年次ホワイトペーパーで説明されているものの一部に過ぎない。以下の予測は、セキュリティ

技術全体に関するガイダンスとなる。2019年の事業で何かを見出すことができることを期待している。

- 2019年に変動するサプライ・ベース
- 政治サッカーを超越するサイバー・セキュリティは
- どこにあるGDPR検察本部
- エッジ機器でディープ・ラーニング解析
- セキュリティ産業用のアプリケーションストア
- 電子アクセス・コントロール・システムの年末の評価と予測
- 次世代の緊急対応を促進するSaaS
- 通信業界で重要となる次世代ブロードバンドの採用
- ライセンス方式移動無線市場動向の概要



ジェネテック・ジャパン、オフィスを西新宿に移転

<https://www.genetec.com/jp>

総合セキュリティ・プラットフォームSecurity Center (セキュリティセンター)を提供しているGENETEC社日本法人であるジェネテック・ジャパンは、11月1日にオフィスを東京都港区南青山から東京都新宿区西新宿に移転した。

■新オフィスの情報

〒160-0023

東京都新宿区西新宿三丁目1-2 SKI西新宿ビル7階

電話・03-4520-5707

凸版印刷、顔画像の非識別化サービスを提供開始

https://www.toppan.co.jp/news/2019/10/newsrelease191017_1.html

凸版印刷は、顔認識技術で個人が特定できる要素に独自の加工を施すことで、個人のプライバシー保護を実現する顔画像の非識別化サービスの提供を2019年12月より開始する。

本サービスはAIによる顔認識技術における個人情報の特定・流出を防ぐ。個人を特定する識別子に独自の加工を施すことで、顔画像の機械認識率を下げ、顔画像の非識別化を行うもの。本サービスを活用することにより、個人の識別情報を保持しない顔画像を作成することができ、個人のプライバシー保護や企業などにおける安心・安全なデータの保持・活用を実現する。

なお、本サービスの提供に先立ち、凸版印刷はイスラエルのD-ID社(De-Identification)と、顔画像の非識別化サービスにおける戦略的パートナーシップ契約を締結した。

■3つの非識別化技術

1. 視認類似性を保持した非識別化技術

個人の特徴となる要素である輪郭、目鼻立ちなどを加工し、顔画像の非識別化処理を行う。これにより、人間の目では情報を判断できる要素を残しながら、AIでの顔認識による個人



視認類似性を保持した非識別化



最少属性を保持した非識別化



ぼかしによる非識別化

の特定を防止する。

2. 最少属性を保持した非識別化技術

顔認識技術に対して、対象の個人とは異なる別の顔を作成しながら、最小限の属性情報(年齢、性別など)を残す形で顔画像及び動画の非識別化処理をすることが可能。これにより、企業の技術開発やマーケティングなどにおいて、安心・安全なデータ活用を実現する。

3. ぼかしによる非識別化技術

自動的にぼかし処理を入れることにより、顔画像及び動画の非識別化を実現。映像内の人物プライバシーの保護にも有効。



SBISecSolとNEC、本人確認AML/CFT等の金融機関等向けソリューション事業を展開する合併会社を設立

https://www.sbigroup.co.jp/news/2019/10/16_11695.html

SBIセキュリティ・ソリューションズ(SBISecSol)とNECは、分散型台帳技術を活用した本人確認(KYC: Know Your Customer)、AML/CFT(AML: Anti-Money Laundering、CFT: Counter Financing of Terrorism)や次世代認証等の金融機関等向けソリューション事業を展開する合併会社を設立した。

■合併会社の概要

- 商号・・・SBIデジトラスト株式会社
- 事業内容・・・分散台帳技術に基づく本人確認と次世代認証、

不正アクセス検知のためのソリューションの企画、設計、開発および運営

- 本社・・・東京都港区
- 代表者・・・バスケス カオ フェルナンド ルイス
- 設立:2019年10月1日
- 資本金・・・3億円(資本準備金を含む)
- 出資比率・・・SBISecSol 66%、NEC 34%



KTワークショップ、IP監視カメラシステムセミナーを開催

<http://www.kt-workshop.co.jp>

システム構築企業のKTワークショップは、2020年1月17日にIP監視カメラシステムセミナーを開催する。今回注目すべき点は、同時にAvigilon社とイーグルアイネットワークス社のデモを紹介することだ。

同社は、日本市場でいち早くマイルストーン社VMSを紹介し

たことで知られているが、現在では、上記のAvigilon社とイーグルアイネットワークス社のソリューションも取り扱っている。ユーザ側の立場から見れば、VMSベースか、高精細カメラベースかあるいはクラウドVMSベースかを選択することができるメリットがある。



日立製作所と日立産業制御ソリューションズ、AI画像解析技術を活用した「高速人物発見・追跡ソリューション」を販売開始

http://info.hitachi-ics.co.jp/product/newsrel/2019-10_aiimageanalysis.html

日立製作所および日立産業制御ソリューションズは、日立製作所が開発したAI画像解析技術を活用し、防犯カメラなどの映像に映る人物の中から、性別、年齢層、服装など100項目以上の全身特徴を使って特定人物を高速に発見・追跡することが可能な「高速人物発見・追跡ソリューション」を日立産業制御が製品化し、10月7日から販売を開始した。

本ソリューションは、防犯カメラで撮影された人物の数万人規模の映像解析データに対して1秒以内で特定人物を高速に検索・発見し、防犯カメラの位置情報や撮影時刻を使って移動経路を追跡するものであり、駅や空港、商業施設での不審者や迷子の早期発見のほか、警察や自治体などの公共機関において、防犯カメラ映像の目視による監視や記録映像の確認といった業務の負荷軽減・効率化と警備の高度化を支援する。

今回販売開始する「高速人物発見・追跡ソリューション」は、性別、年齢層、服装など100項目以上の全身特徴から特定人物を高速検索し、移動経路を防犯カメラの位置情報を使って表示するなど、警備の高度化を支援する。また、防犯カメラの映像から顔を識別できない場合でも、人物特徴から発見・追跡が可能のため、事件・事故の見逃しの防止に寄与する。

本ソリューションは、日立産業制御ソリューションズが提供する「フィジカル・セキュリティ統合プラットフォーム」上に、「高速人物発見・追跡機能」として実装し、提供するもの。本プラット

フォーム上で「エリア侵入検知」や「荷物置き去り検知」といった各種検知機能と組み合わせることで、特定のインシデントの検知から特定人物の発見・追跡まで、監視業務を一元的に支援し、より効率的で高度なセキュリティソリューションを提供する。

また、本ソリューションは、セキュリティ分野のみならず、工場や物流現場における作業や商業施設、公共施設における来場者の行動分析など、産業分野や小売・流通分野、公共分野など様々な分野への応用が期待できる。なお、日立製作所は、海外向けにはHitachi Vantara(日立ヴァンタラ社)を中心に、本製品を活用したソリューションを提供する。



オリエンタルランド、東京ディズニーランド・東京ディズニーシーのエントランスに金属探知ゲート・X線検査機などを導入

http://www.olc.co.jp/ja/news/news_tdr/20191101_1/main/0/link/20191101_01.pdf

オリエンタルランドは、このほど、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーのエントランスに金属探知ゲート、X線検査機などを導入することを決定した。東京ディズニーリゾートでは、安全かつ安心してリゾートの滞在することができるよう、リゾー

トエリア内の全ての関係施設などと連携して警備を行っている。

今後もさらにゲストの皆さまの安全性を強化し続けるために、金属探知ゲート、X線検査機や追加の警備対策を導入する予定。



ソニー、人工知能(AI)の研究開発を加速する「Sony AI」を新設

<https://www.sony.co.jp/SonyInfo/News/Press/201911/19-118/>

Sony AIは、AIの研究開発を加速し、ソニーグループの擁するイメージング&センシング技術、ロボティクス技術や、エンタ

テインメントの資産を掛け合わせ、全ての事業領域での変革と、新たな事業分野の創出に貢献することを目指す。



全日警とCBC、自律型警備ロボットの販売で業務提携

<https://www.cbc.co.jp/topics/news/000847.html>

全日警とCBCは2019年10月16日、AI(人工知能)を搭載した自律型警備ロボット「Nimbo(ニンボ)」の販売に関する業務提携を発表した。

レーザー光を照射してその反射から物体を検知する「LiDAR(ライダー)」センサも搭載。取得した情報を基に周辺環境を把握したり自己位置を推定したりする「SLAM(Simultaneous Localization and Mapping)」技術を使って、施設内の地図を自動生成することができる。

Nimboは、AIロボット・ベンチャー企業の米Turing Video(チューリング・ビデオ)社が製造する。本製品は、セグウェイ・ロボティクスの開発キット「Loomo」をベースに、パトロール機能などを拡充し、警備員が利用するための専用アプリも開発した。

【開発背景】

警備分野では深刻な人手不足の状況がありながら、セキュリティに対する需要は増加している。しかし、人材供給が追いつかない現実と、過酷な労働環境が存在する。

こうした問題を解決するため、セキュリティ・ロボットとして「Nimbo」の開発に取り組んだ。

【3社による連携からのスタート】

今回の事業開始については、Nimboの製造および改良はチューリング・ビデオ社が担当し、輸入販売元はCBCが担当し、



Nimboとともに収まる
CBC Division Director 小川卓也氏
チューリング・ビデオ社副社長
ダニエル・ファー氏
全日警 常務取締役営業本部長
佐藤修一氏

全日警がエンドユーザに供給する。将来日本語化などの対応が整い次第、他の警備会社などに供給する計画。

【主な特徴】

1.コスト

「Nimbo」の利用料金は2年契約で月額20万円弱に設定。そのため、他社製品の警備ロボット購入時の1/3以下のコストで導入が可能となる。

2.搭載技術

スマートフォンでの簡単操作でマップ作成やレイアウト変更に対応。

※スマートフォンでの簡単操作機能

- ・警備エリアにおけるマップの作成
- ・パトロール経路MAPの作成
- ・リアルタイム映像の確認
- ・双方向映像/音声通信機能
- ・テキスト読み上げ機能

3.コンパクトなサイズ

通路幅平均2~3mの商業施設や企業にも容易に導入することを実現。

4.モビリティ機能

モビリティ機能を搭載し、切り替えボタンを押すだけで移動乗り物として使用できる。

5.コントロール・ソフトウェアのアップグレード

ハード+ソフトのパッケージ・サービスとして提供。さらに常時インターネットと接続していることで、ソフトウェアのアップグレードは無償で提供。

【主な仕様】

- サイズ・H660 x L580 x W280mm
- 重量・23kg
- 速度・最大4.8km/h
- 乗車時速度・最大18km/h
- 動作時間・約7.5時間
- アクセサリ・チャージング・ステーション、電源アダプタ
- 充電時間・約5時間
- AIで物体認識をするカメラとLCDディスプレイ、マイクとスピーカなどを装備
- 本体上部のカメラ兼LCDディスプレイ部分は上下左右に首振りが可能。
- 現段階で搭載しているカメラは1機種。今後ユーザの要望により機種追加を検討
- 屋内仕様。2021年には屋外仕様をリリース予定。

【展開目標】

2019年度中に100台、2020年に300台、2021年に1,000台の導入を計画している。



2019年は予想を上回ったが、映像監視の需要構造は不均衡

<https://www.asmag.com/showpost/30652.aspx?name=news>

ムーリ社発行の2019年物理的セキュリティ産業に関する年次報告書では、2019年の工場出荷価格での物理的セキュリティ製品の世界生産の総額は343億1000万米ドルで、2018年には8.5%増加し、過去5年間の平均年間成長率は7.24%だった。これは、2012年から2017年までの世界のGDP年成長率2.7%程度と比較すると、物理セキュリティ市場の成長が2.6倍となり、顕著な成長と言える。過去10年間でみると、市場は年平均6.27%で成長してきた。同書では、市場規模は2024年に平均年成長率が10.72%で567億6000万ドルに達すると予測しているが、3つの分野(アクセス・コントロール、映像監視、侵入者警報)と地理的地域とは異なる成長率を予測している。

映像監視は、欧米メーカーが中国企業との競争に反撃して対抗したため、過去3年間で9.74%と最も高い成長率を示したが、中国の公共事業に浸透する可能性はほとんどない。中国は、おそらく世界の需要の35~40%を占める最大の国家市場となっている。

アクセス・コントロールは、IPネットワーク産業をさらに拡大し、生体認証、ID管理、ワイヤレス・ロックシステム、ACaaSに深く進出するにつれて、8.2%よりもわずかに高い実績を残すことが期待されていた。これは3つの事業の成長率が3年連続で最も高かったが、サプライチェーンの統合や弱点を通じて、価格圧力が強まってきた。これにより、成長率が押し戻された。

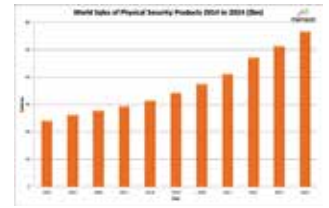
物理的なセキュリティ分野の主流である侵入者システム事業は、長期間で成熟に達してきたが、レーダ、サーマル、マルチ・センサ・カメラの使用が増加し、2019年には3.8%の成長に貢献しそうだ。さらに、センサ技術、無線技術の進歩、映像監視、アクセス・コントロール、屋外照明などの統合で成長を押し上げている。市場では、PP(物理的防護)/IA(情報アーキテクチャ)事業に参入されているが、この部門で計上されていない幾つかの映像監視製品が存在する可能性があり、これにより部門別成長率集計を誤らせた可能性があるとみている。

映像監視事業の需要構造は不均衡

本書では、海外メーカーが中国市場の一部を獲得するための問題は、技術や性能ではなく、その根幹が政治的、地政学的な課題であることを示した。その理由は、共産党が民間の映像監視メーカーをある程度支配しており、海外企業が中国映像監視市場の50%以上を占める公共事業への参入を望み、長期の安

価なローンで支援する場合は、国家の定める要件と要求を遵守する必要がある。

これにより、中国は外国製品を公共事業で使用しないことを保証している。この取り決めが自由貿易の可能性を歪め、さらにHikvision社とDahua社といった中国の大手メーカーは、他のメーカーが生産台数の少ないために持続できないレベルまで価格を下げることで、世界の映像カメラ市場の40%を獲得することができた。しかし、尾に刺さる可能性があります。地平線には、公共部門の安全な都市プロジェクトへの巨額の投資の一部を望んでいる他の中国企業があります。世界最大通信会社の一つであるファーウェイは、映像カメラへの参入を発表し、AI映像分析の新しいスタートアップMegvii(メグビ)社は、完全な映像監視ソリューションを提供する予定だ。両社事業が最終的に公共事業市場で確立し、現在の大手2社からシェアを取ることは間違いなく、これが、より開かれた世界市場で事業展開する中国以外のメーカーへの圧力を減らす可能性がある。



2024年までの市場予測

今後5年間の2024年までの予測では、世界貿易に改善はなく、今後2年間のGDP成長率もほとんどないとの見通しを示している。過去5年間は、最先端技術が製品性能を向上させ、TCO(総所有コスト)を継続的に削減しているため、物理セキュリティ産業は、業績の低い経済環境の中で堅調な成長を達成できることを示している。

テロ活動は今後5年間に鎮圧される可能性は低く、これに対抗する政府予算は物理セキュリティ市場に利益をもたらす。民間市場では、IoT技術に助けられ、物理セキュリティ事業と参入企業の3つの分野全てで包括的な接続の需要が高まる。これは、2020年末までに今後4年間の成長を確実に加速させることで明らかになる。

2019年から2024年までの5年間の年平均成長率は10.7%と予測している。主な牽引力としては、AI映像解析ソフトウェアが、現在の小規模から2024年末までに35億ドルまでの成長の可能性があり、これにより多くの映像監視ハードウェアに対する需要を創造する。

本記事は、年次報告書「物理セキュリティ産業2019 - 2024」の第11版からの抜粋である。



ジョンソン・コントロールズ社、Evolvテクノロジー社と提携

<https://www.asmag.com/showpost/30784.aspx?name=news>

ジョンソン・コントロールズ社は、施設やエリアでの攻撃的な銃撃戦やテロの脅威を防ぎ、一段高い安全性とセキュリティを得るために、脅威検出企業Evolvテクノロジー社と提携したことを発表した。Evolvテクノロジー社の兵器検出システムは、Evolv Cortex AIソフトウェア・プラットフォームを搭載し、1時間あたり3,600人以上のスクリーニングを受けた業界最速のデータ処理量を提供し、脅威や身体やバッグ内の鍵や硬貨、ベルトや携帯

電話などの個人的な持ち物を素早く区別できる。

進化する先端技術は、映像監視やアクセス・コントロールなど他の技術と統合することができるため、教育や健康産業また金融機関や娯楽会場など複数の業界に対して完全な建物全体のソリューションを提供することができる。このソリューションは、北米全土の200以上のサービス拠点および3,800人以上のサービス要員の配置でサービスを提供できる。



アーカス社とシーメンス社、クラウド映像監視サービスを提供

<https://www.asmag.com/showpost/30778.aspx?name=news>

クラウドベースの映像およびアクセス・コントロールの統合サービスのアーカス社は、シーメンス・スマート・インフラストラクチャ社)とのパートナーシップを発表し、企業向け統合映像監視サービス提供を開始した。この提携は、北米を皮切りに世界各地での展開を目的としている。

両社の提携は、最近大きな成長を遂げているクラウドベースのセキュリティ・ソリューションの重要性が高まっていることを示している。アーカス社がサービスを提供し、シーメンス社が堅牢なクラウドベースのソリューションを提供し、現代のビジネスがオンプレミスソリューションに対して、大幅にコスト削減した効率的で高い安全性のある応答環境を提供する。

アーカス社のサービスは、何千台もの監視カメラとシームレスに統合し、各地域に分散している事業拠点を1つの画面にまとめ、映像およびセンサなどのデータを関連付けることによって機能する。この監視から貴重で実用的な解析を提供することで、分散型組織は映像操作全体を一元的に管理し、データを集約し、映像データを強力な運用判断材料に変換し、システム管理の負担とコストを削減することができる。

アーカス社のサービスは、幅広い監視およびセキュリティ展開に必要な強力で柔軟なプラットフォームを魅力的な価格で提供する。その結果、ユーザは複雑さを軽減しながら業務の可視化を高めることができる。



Avigilon社、ACM6システムの提供を発表

<https://www.asmag.com/showpost/30757.aspx?name=news>

モトローラ・ソリューションズのグループ企業のAVIGILON社は、Avigilonアクセス・コントロールマネージャー(ACM)6システムの提供を発表した。

ACM 6では、エンド・カスタマー・ライセンスの発行、配布、管理方法を簡素化することで、エンド・カスタマー・ライセンスの発注と提供を行うための新しいモデルが導入されている。この新しい手順により、ユーザはシステムをさらに迅速に稼働し、効率を向上させることができる。

ACM 6は、デフォルトのドア・テンプレートと配線テンプレート、大きなカード・フォーマットのサポート、マーキュリ・コントローラの拡張サポートなどにより、導入の容易さを促進する。

ACMシステムは、Avigilonコントロール・センター(ACC)映像管理ソフトウェアとシームレスに統合され、ユーザはACMカード所有者情報を使用して、関連するドア・アクティビティの映像クリップを表示する人を検索することができる。ACMとACCの統一機能は、Avigilonアピランクス・テクノロジーのパワーを活用し、ACCインタフェイスから直接自分のアイデンティティ名に基づいて関心のある人を検索することを可能にする。これにより、ユーザは施設をさらに迅速かつ効率的に保護することができる。

Avigilon社は、この統合によりACMは顧客のニーズを満たすための合理化されたソリューションと評している。



マイルストーン・システムズ社、集中型検索ソフトウェアを導入

<https://www.asmag.com/showpost/30647.aspx?name=news>

マイルストーン社製VMSであるXProtect 2019 R3は製品アップデートで、幾つかの新機能と機能を導入した。これには、集中検索、新しいドライバー・フレームワーク、アダプティブ・ストリーミング、強化されたデバイス・パスワード管理が含まれている。この製品アップデートにより、マイルストーン社は、今後もコスト効率の高い映像技術ソリューションに対するユーザからの高い要求を満たすために、改良を継続する。

●集中検索

2019 R3 リリースの主な機能の1つは、XProtect スマート・クライアントの新しい集中型検索プラットフォームであるSearchで、ユーザが全てを1か所で検索できるようにした。以前は、ユーザは検索対象のデータに応じて、複数のスタンドアロン検索を実行していた。新しい検索ツールを使用すると、アラーム、イベント、ブックマーク、その他のタイプのデータを1か所で検索し、迅速かつ効率的な映像検索が可能になる。さらに、新しい検索プラットフォームは、専用のフィルタリング・オプションを使用して、パートナーとの統合とその強力な解析機能をスムーズに組み込む。特定のプラグインやデバイスを通じて、ライン・クロスやオブジェクト・インフィールドなどの検索条件が検索タブで直接有効になり、時間を節約し、効率を向上させる。

●ドライバー・フレームワーク

XProtect 2019 R3は、8,000台以上のカメラとデバイスをサポートしている。XProtect デバイスのサポートが市場のデバイス数に応じて指数関数的に増加し、IoT などの新しい種類のデバイスのサポートを提供するために、ドライバー・フレームワー

クを導入した。マイルストーン統合プラットフォームのSDK(ソフトウェア開発キット)内のドライバー・フレームワークを使用すると、デバイスの製造元は、大小を問い合わせると、独自のドライバーを開発し、デバイスの互換性を高め、ONVIFの機能を超える、より深い統合を実現することができる。

●アダプティブ・ストリーミング

この新機能により、高解像度のストリームが不要な場合(たとえば、スマート・クライアントで映像を表示する場合や、スマート・ウォールを全画面よりも小さいサイズで表示する場合に、録画サーバから低解像度のストリームを受信することができる。これにより、ユーザの視聴がスムーズになり、ユーザ・エクスペリエンスが向上し、不要な高解像度映像のデコードに必要なハードウェアが少なくなり、組織内の他のニーズに利用できる帯域幅の使用率が向上するため、総所有コスト(TCO)が削減される。

●新しいデバイス・パスワード管理

新しいデバイス・パスワード管理は、新規インストールのセットアップ時や既存のインストールを拡張する際に、XProtectの使いやすさと強化されたサイバー・セキュリティに焦点を当て続ける。この機能により、システム管理者は、選択したデバイス製造元のXProtect 管理クライアントから全てのデバイスのパスワードを直接管理することができる

2019 R3 更新プログラムでは、サポートしているデバイス・メーカー数が2倍になり、企業の運用方法とそのパスワード・ポリシーに従って将来のパスワード変更をスケジュールするオプションが追加され、デバイス・パスワード管理が完全に自動で行われる。



富士フイルムとビデオテック社、長距離監視ソリューションを提供

<https://www.asmag.com/showpost/30662.aspx?name=news>

富士フイルム欧州社とイタリアVideotec社は、最高性能の製品を統合し、正確な長距離監視のための革新的なソリューションを提供する新しい提携を発表した。このソリューションは、空港や港湾、高速道路や国境、環境などの重要な社会基盤や交通網の保護に最適としている。

今回発表したシステムは、富士フイルム製の新しいハイエンドSX800カメラをVideotec社製ULISSE MAXI PTZに組み込んだ。SX800カメラを堅牢で正確なULISSE MAXIポジション

グ・ユニットに簡単に統合し、高速で周囲と広範な屋外区域を監視するためのPTZ IPカメラ・システムを提供する。

Videotec社製ULISSE MAXIは、ONVIFプロトコルを介してネットワーク・システムに簡単に統合し、大型レンズでIPカメラを管理することができる屋外IP映像監視のための強力なフルIP PTZ。ULISSE MAXI PTZの頑丈な機構と強力なモータにより、操作に関する高いストレスと振動に対する最高の耐性を保証し、過酷な気象条件に耐えるように設計されている。ユニット前部のガラスには雨および塵を取り除くワイパーが装備されて

いる。

SX800カメラレンズは、広角端の20mmから望遠端の800mmまでの幅広い焦点距離をカバーする40倍光学ズームで、常に鮮明な画像と詳細なクローズアップを提供する。さらに1.25xデジタルズームにより焦点距離1,000mmに相当する長距離監視を実現している。

内蔵の手ぶれ補正器は、通常、突風や構造物の振動によって引き起こされるカメラの動きを正確に補正する。このシステ

ムは、最も小さな動きの影響を受けやすい超望遠域で撮影する場合に特に効果的となる。

高感度センサと高度なノイズ・リダクションにより、SX800は低照度の条件下でも最小限のノイズで鮮明な映像を撮影することができる。

高度なデフォグ機能は、霧や塵埃による光の拡散によって引き起こされる霞んだ画像を鮮やかな再現する。



イーグルアイネットワークス社、イーグルアイ・クラウドVMSにシングル・サインオンを導入

<https://www.asmag.com/showpost/30773.aspx?name=news>

イーグルアイネットワークス社は、SAML 2.0 においてシングル・サインオン(Single Sign-On、略称:SSO)のサポートを発表した。シングル・サインオン(SSO)は、ユーザが1つの同期された資格情報セットを利用して企業のアプリケーション・スイート全体にアクセスできるようにするセッション・エンタープライズ認証サービス。ユーザは、アクティブ・ディレクトリまたはLDAPを介してイーグル・アイ・クラウドVMSへのアクセスを簡単に追加または取り消すことができる。

今回の導入について、同社CEOディーン・ドレイコ氏は、「当社はオープン・アーキテクチャで知られており、ユーザはサードパーティのパートナーシップを活用して運用効率を向上させることができる。シングルサインオンを導入することで、当社のアーキテクチャを活用して、ユーザのサインオン体験を合理化し、

標準化している」述べている。

SAML認証を組み込むエンタープライズ上の利点として、単一の認証ポイントを使用すると、セキュリティが向上する点を挙げている。

また、ユーザ・エクスペリエンスの簡素化の効果としては、会社の資格情報を使用してイーグル・アイ・クラウドVMSにログインすることで、別の資格情報セットを保存してセキュリティで保護する必要がなくなる。

さらに、実装とは無関係に使用できる標準化されたSAMLを活用することで、ベンダまたはプラットフォーム固有のアーキテクチャに関連する障壁を排除することができる。

そして、管理コストの削減として、企業オーナーと従業員は、単一の資格情報セットを使用して複数のアプリケーションにアクセスすることで、効率化を一層促進する。



ジェネテック、次世代モバイル・ナンバープレート認識システムを発表

<https://www.asmag.com/showpost/30751.aspx?name=news>

今回発表したGenetec AutoVu SharpZ3は、次世代モバイルALPR(Automatic number-plate recognition:自動ナンバープレート認識)システム。インテルMovidius Myriad X VPU(ビジョン処理ユニット)を搭載して、インテル社製最新ディープラーニングおよびコンピュータ・ビジョン技術を採用した、世界で初めて特化した車載ALPRシステム。AutoVu SharpZ3システムのディープラーニング機能により、車載分析、状況認識、精度の高度なレベルの革新が可能になる。

AutoVu SharpZ3により、自動車ベースのALPR技術は、インテル社の高性能、低消費電力、ディープラーニングVPUによって可能になった進化の新しい段階に入る。強力なディープ

ラーニング処理を機器本体に搭載することで、従来のコンピュータ・ビジョン技術やサーバ後処理の制約を受けない。

AutoVu SharpZ3システムは、困難な環境(悪天候や交通量渋滞、高速走行など)でのナンバープレート読み取りの精度を向上させるだけでなく、車両の種類、色などの追加項目の分析を即座に認識することもできる。

将来のリリースでは、AutoVu SharpZ3のディープラーニング機能により、都市はALPR搭載車両を使用して、許可されていない道路建設の検出、許可されていない区域に放棄されたeスクーターまたは自転車の発見など、様々な運用に対処することができる。



映像SYNOPSIS HIDグローバル社、LUX-IDentを買収し、RFID技術を拡張

<https://www.asmag.com/showpost/30632.aspx?name=news>



HIDグローバル社は、チェコのランズクルーンに拠点を置くRFID(無線周波数識別)部品メーカーのLUX-IDent社の買収を発表した。この買収により、RFID技術におけるHIDグローバル社の市場が拡大し、中東欧での存在が強化される。RFID先端技術に関するHIDグローバル社の実証済みの先進性は、同社を様々なRFID導入事例やIoTアプリケーション用部品の高水準性を支えている。

LUX-IDent社は、インレイ、ラミネート、スマートラベル、リストバンド、キーフォブ、ガラストランスポンダ、その他の完成品などのRFIDコンポーネントをLF(低周波)、NFC(近距離通信)を含むHF(高周波)およびRAIN RFID(超高周波)など幅広い帯域で提供している。

RFID部品ポートフォリオの拡大により、HIDグローバル社は、110米ドルのRFID市場により良いサービスを提供し、スマートラベル製品を拡大し、RFIDコンポーネント設計と柔軟な製造における新機能を備えた大規模なIoTスペクトルに対応できるようになった。



ブリーフカム社、AXIS Camera Stationとの統合を発表

<https://www.asmag.com/showpost/30746.aspx?name=news>

映像SYNOPSISおよび映像コンテンツ解析ソリューションを提供しているブリーフカム社は、中小規模の監視展開に最適なソリューションである映像管理ソフトウェアAxis Camera Stationとの統合を発表した。ブリーフカム社の包括的な映像コンテンツ解析プラットフォームと組み合わせたAxis Camera Stationの容易な操作で、映像を実用的な情報に変換するために、シンプ

ルで強力なソリューションを使用することができる。

Axis Camera Stationとのブリーフカム社の統合は、リアルタイム通知を実現する高度な解析を活用しながら、数分で映像の時間のレビューを可能にし、迅速に関心のある対象物を特定するブリーフカム社製品のポートフォリオ全体で利用が可能となる。これにより運用効率とデータ主導の意思決定のための定量的な情報を得ることができる。

中東のセキュリティ産業界を知るINTERSEC2020、開催迫る

<https://www.asmag.com/showpost/30770.aspx?name=news>



アラブ首長国連邦ドバイにあるワールド・トレードセンター会場に世界50カ国1,200社以上の出展企業が集う中近東最大のセキュリティ関連イベントだ。

出展社数は、火災と救助パビリオンで430社、コマーシャル・セキュリティ・パビリオンで375社、安全と健康パビリオンで140社、情報セキュリティ・パビリオンで120社、国境警備&警察パビリオンで90社、物理&外周セキュリティ・パビリオンで50社と

アラブ首長国連邦ドバイで開催される世界有数のセキュリティ展示会である第22回INTERSECは、2020年1月19日から21日までの3日間にわたり、ド

続く。

INTERSECは幾つものセクションをカバーしている。火災と救助、境界と物理セキュリティ、安全と健康、国土安全保障とポリシング、情報セキュリティ、スマートホーム&ビル・オートメーションなどだ。

専門のパビリオンや会議そして認定ワークショップを訪れるのは、世界中の34,000人以上の貿易訪問者は業界の広範囲に及ぶ事業に大きな影響を与えることで知られ、さらに最新の技術の進歩に触れることを保証されている。その範疇はエネルギーと金融、小売とホスピタリティから教育、政府、物流と建設まで及ぶ。

2020年の新しい機能はINTERSEC Arenaだ。ここでは特定の製品カテゴリを購入する際の重要な考慮事項についてエンドユーザを教育しながら、業界を横断する業界固有の課題に対処する最先端技術に関する情報を提供する。

TOA、屋外ドームカメラ一体型レコーダ「タウンレコーダー」シリーズ新機種を発売



今回発売したのは、LTE通信機能を搭載し、撮影機能と録画機能を一体化したオールインワン・タイプの屋外ドームカメラ一体型レコーダ「タウンレコーダー」2機種。本製品は、フルHD(1920×1080ピクセル)の高精細映像での撮影・記録に対応し、電源供給用配線だけで動作するため、映像信号線の敷設が困難な街頭や、広い敷地の施設でも設置可能。撮影映像は本体内蔵SSDとSDカードに同時録画でき、幅広い運用に対応。有事の際は内蔵の無線LANを通してパソコンに録画映像をダウンロードして、パソコン上で確認することができる。

さらに、本製品はスマートフォンやパソコンから遠隔地のライブ映像や動作状態を確認することができる。

これに伴い、インターネット経由でのライブ映像や記録画像の確認ができるサービスプランの提供を2019年10月31日に開始した。

【主な特徴】

1.カメラ部を4タイプから選択可能

- カメラ一体型のG-R311-1と、ボックス型のG-R310-1の2機種。
- ボックス型とPTZカメラとを組み合わせると、旋回台とズーム・レンズの操作ができる。

2.インターネット経由で遠隔地のライブと記録映像の確認、各種設定

- LTEによる無線通信機能により、遠隔地にあるパソコンやスマートフォンから、インターネット経由でライブ映像の確認ができる。従来機種同様に、Googleマップ上での機器設置位置の配置、異常発生時のメール発信や動作履歴、動作状態の確認も可能。

- USBマイクの接続で、「タウンレコーダー」に接続したスピーカーから遠隔放送が可能。

- 新機能として外部機器制御のための接点出力やRS-485を搭載。遠隔地から現場状況を確認しながら、水門の開閉など付近のシステムの遠隔制御ができる。

- オート・フォーカス付3.2倍電動バリフォーカル・レンズのズーム・フォーカスの調整。

3.本体内蔵SSDとスロット挿入SDカードに同時録画

- 高耐久の内蔵SSDと、使い勝手の良いSDカードに同時録画。
- 高所に取り付けられた本機との無線LAN通信が可能

4.デイ/ナイト機能搭載

明るい場所ではカラー・カメラ(デイ・モード)、暗い場所では高感度白黒カメラ(ナイト・モード)として機能する。ナイト・モードでは内蔵の赤外LED照明が点灯。

5.防塵・防水性能

IP66対応で屋外に設置が可能。

製品URL・https://www.toa.co.jp/products/security/outdoor_dome_camera_recorder/outdoor_dome_camera_recorder/

IDIS社製940万画素フィッシュアイカメラ



DC-Y8C13WRX

■製品仕様/

Product Specification

- Direct IP NVRによる簡単なインストール

- 12MPセンサによる超高解像度(9.4MP 3200×2944)
- 固定焦点レンズ(f=1.2mm)
- 画角(水平×垂直)・・・180度×180度
- micro SD/SDHC/SDXC、Smart Fallover(最大256GB)
- 双方向オーディオ
- アラーム イン/アウト

- デイ/ナイト機能(ICR)
- IR LED(距離:15m)
- PoE(IEEE 802.3afクラス3)、DC 12V
- 20dBトゥルーワイド・ダイナミック・レンジ(WDR)
- 多彩なDewarping(歪み補正)ビュー・モードに対応

■問い合わせ先

株式会社セキュア

URL・<https://corp.secureinc.co.jp/>

TEL・03-6911-0660

アクシス、固定ドームカメラAXIS P3245モデル4機種を発表

製品URL・<https://www.axis.com/ja-jp/newsroom/news/streamlined-quality-light>



今回発表の製品は、AXIS P32 Network CameraシリーズのAXIS P3245モデル。1080pで卓越した画質を達成するこの製品は、屋内と屋外対応モデルと赤外線照明の搭載の有無により、4種類のモデルが用意されている。

最新世代のAxisチップをベースとしたこれらのカメラは、Axis Lightfinder 2.0およびAxis Forensic WDRを搭載しているため、困難な照明条件や暗所で

も正確な色で優れた詳細映像を撮影することができる。

また、バリフォーカル・レンズおよびリモート・ズームとフォーカス機能を備えたこのカメラは、微調整の操作をほぼ行うことなく、クローズアップとオーバービューに対応することが可能。全てのモデルに耐衝撃IK10定格のケースが装備されている。屋内モデルのAXIS P3245-VとAXIS P3245-LVの両モデルのケースはスナップ式で、目に見えるネジが付いていないという利点がある。また、希望する色で簡単に再塗装することができ、特定の環境に違和感なく溶け込ませることができる。

屋外対応モデルのAXIS P3245-LVとAXIS P3245-LVEにはAxis OptimizedIRが含まれており、これにより全くの暗闇でも監視の範囲を拡張することが可能。また、双方向音声機能とI/O接続性を備えており、音声検知や他の機器の統合などにより、監視機能を容易に強化することができる。

AXIS P32シリーズの新製品は、H.264/H.265をサポートするAxis Zipstreamテクノロジーを搭載している。これにより、帯域幅とストレージ要件が大幅に削減される。

また、署名付きファームウェアやセキュアブートなどのセキュリティ機能の強化により、ファームウェアが改ざんされていないこと、および許可されたファームウェアのみがインストールされていることが保証される。さらに、必要に応じて、セキュア・ブートにより、工場出荷時のデフォルト設定後にカメラにマルウェアが侵入していないことを確認することが可能。

【主な特長】

- Lightfinder 2.0およびForensic WDR
- 署名付きファームウェアおよびセキュア・ブート
- H.265とH.264をサポートするAxis Zipstreamテクノロジー
- より強化された分析性能
- OptimizedIR、双方向音声機能、I/O接続性を備えたモデル (AXIS P3245-LVとAXIS P3245-LVE)

型式名	P3245-LV	P3245-LVE	P3245-V	P3245-VE
設置環境	屋内対応	屋外対応	屋内対応	屋外対応
最大解像度	1920x1080	1920x1080	1920x1080	1920x1080
最低照度/光感度 (カラー)	0.1	0.1	0.1	0.1
センサのサイズ (メガピクセル)	2	2	2	2
HDTV解像度	1080p	1080p	1080p	1080p
バリフォーカル・レンズ	✓	✓	✓	✓
デイ/ナイト機能	✓	✓	✓	✓
WDRテクノロジー	Forensic WDR	Forensic WDR	Forensic WDR	Forensic WDR
Lightfinder	✓	✓	✓	✓
Zipstream	✓	✓	✓	✓
リモート・フォーカス	✓	✓	✓	✓
遠隔ズーム	✓	✓	✓	✓
Power over Ethernet	✓	✓	✓	✓
ローカルストレージ	✓	✓	✓	✓
赤外線照明内蔵	✓	✓	-	-
耐衝撃等級	IK10	IK10	IK10	IK10
双方向音声	✓	✓	-	-
アラーム入力/出力	1/1	1/1	-	-



VIVOTEK社、H.265採用180度パノラマ・カメラとマルチ・センサ・カメラを発売

今回発売した製品は、CC9381-HV、MS9321-EHV、MA9322-EHTVの3機種。これらの製品は、H.265とVIVOTEK社製スマート・ストリームIIIビデオ圧縮技術「WDR Pro」を搭載し、全天候対応ケースに納め、全てトレンドマイクロIoTセキュリティにより保護されている。



●180度のパノラマ・ネットワーク・カメラ CC9381-HV

5メガピクセルの解像度と120度の垂直視野を確保しながらコンパクトなデザインを実現。15mのIR光源でカメラをさらに強化。

●マルチ・センサ・カメラMS9321-EHV

4つの5メガピクセル・センサで65度の垂直視野を滑らかに網羅し、サンシールド装



備の最新のロボコップ風デザインを採用。また、最大30mまで有効なIR光源もサポート。さらに、ビデオ・アジャスタメント機能を搭載し、ユーザは切れ目のない180度の水平画角により詳細な細部まで把握することができる。

●マルチ・アジャスタブル・センサ・ドーム型カメラ MA9322-EHTV

3.7~7.7mmのモータ・ドライブ・フォーカス・レンズと30mを網羅するIR光源を備えた4つの独立した5メガピクセルCMOSセンサを搭載し、1つのIPアドレスの割り当てのみで4つの異なる領域を同時に表示することができる。



ウエスタンデジタル、NAS環境にストレージ・ソリューション3種を導入

<https://shop.westerndigital.com/ja-jp/>

今回発表したソリューションには、14TB(テラバイト)の容量のWD Red@HDDおよびWD Red Pro HDDをはじめ、ハイブリッドNAS環境でのパフォーマンスやキャッシュ能力を高めるWD Red SSDが初めて導入された。

■WD Red SA500 NAS SATA SSD

NASヘビーユーザ向けに設計された最新のWD Red SA500 NAS SATA SSDは、500GBから4TB(2.5インチのみ)の容量を提供し、頻繁に使用するファイルへのすばやいアクセスを可能にする。NASシステム内でのキャッシングはもちろん、10GbEネットワークに最適な環境の構築が可能。24時間365日稼働するNAS環境で課される膨大な読み取り/書き込み負荷への優れた耐性により、ドライブはOLTPデータベース、マルチ・ユーザ環境、フォト・レンダリング、4Kおよび8Kのビデオ編集に対応することができる。

製品URL・<https://shop.westerndigital.com/ja-jp/products/internal-drives/wd-red-sata-ssd#WDS500G1R0B>

■WD Red NAS Hard Drive

o WD Red SA500 NAS SATA SSDを補完する最新のWD Red HDDは、容量が最大14TBに向上し、NASシステムで最大8つのベイに対応できるよう設計されている。24時間365日環境の小規模ホームオフィスに最適で、年間最大180TBのワークロード率をサポートする。

製品URL・<https://www.westerndigital.com/ja-jp/products/internal-drives/wd-red-hdd>

■WD Red Pro NAS Hard Drive

WD Red Pro HDDは、WD Red HDDに似た構成でありながら、サポートできるNASワークロードはプロフェッショナル級の14TB1にまで高められており、最大24個のベイに対応できる。3D Active Balance Plus技術とNASware 3.0を使用したエラー・リカバリ制御技術により、ドライブ動作の信頼性が大いに強化されている。

製品URL・<https://www.westerndigital.com/ja-jp/products/internal-drives/wd-red-hdd>

LPR(License Plate Recognition: ナンバー・プレート認識)は、アクセス・コントロールから、幅広いアプリケーションで、一般的な技術に発展した。法執行機関。LPRシステムでは、最も重要な構成機器はカメラであり、様々な要件を満たし、エンドユーザにとって最良の結果を保証するために適切にインストールする必要がある。

●ウィリアム・バオ(a&s International誌記者)著

LPRまたはANPR(Automatic Number Plate Recognition: 自動ナンバー・プレート認識)とも呼ばれるナンバー・プレート認識は、ますます市場での受け入れが広がっている。リサーチ・アンド・マーケット社の調査によると、世界のLPR市場は2017年から2025年までに年間平均成長率12%で成長し、2025年までに17億米ドルに達すると予測している。

LPRアプリケーション

LPRは、ナンバー・プレートの画像をキャプチャし、光学式文字認識(OCR)技術を介して数値に変換することによって動作する。ライセンス・プレート番号は、セキュリティ、管理、およびビジネス情報化の目的でエンドユーザを支援する一意の識別子として使用することができる。

「当社は、次に挙げるアプリケーションにLPRを指定した。それは、駐車場を制御する大学、敵を検出する軍事基地、流れを制御するための駐車場、頻度を決定するためにデータベースを使用する洗車、州外をチェックアウトするための地方自治体、高速道路の設計変更、および複数の組織(政府、企業、住宅)のアクセス・コントロールによる通行だ」とキントロニクス社副社長デニス・ガレン氏は述べている。以下にLPRの主な用途を詳細に説明する。

アクセス・コントロール

アクセス・コントロールは、より明白なアプリケーションの1つで、それにより車両はより渋滞することなく施設に出入りすることができる。「LPRは車両のアクセス・コントロールに最も成功してい

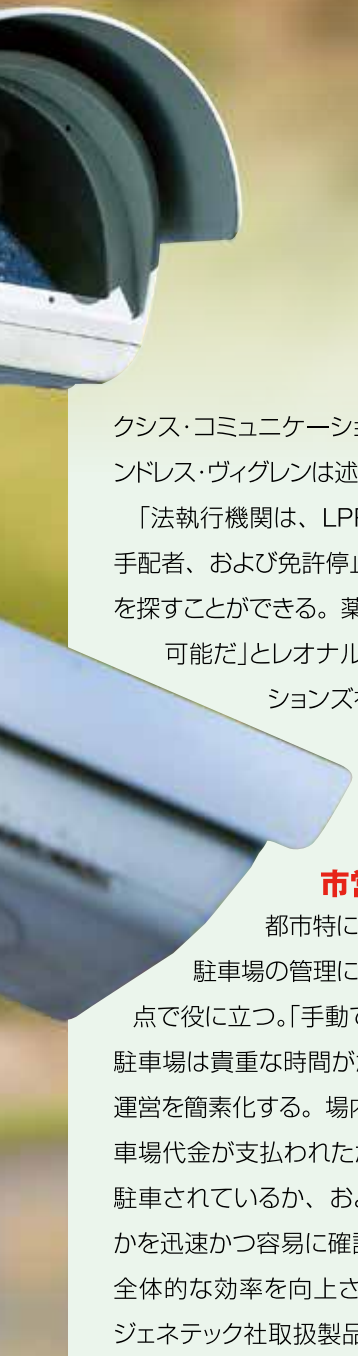


ナンバー・プレート 認識の中心は カメラ

る。つまり、車両が許可または拒否リストに記載されているかどうかにより、駐車場や敷地内に車両が入場または許可されないことだ」とNWセキュリティ・グループ社技術部長ケビン・ボウヤー氏は語っている。

法執行機関

法執行機関はアクセス・コントロール以上にLPRの恩恵を受けることができる。「ナンバー・プレートを認識することで、未登録の車両や盗難車を識別するのに役立つだけでなく、未払いの罰金やチケットで車にタグを付けることもできる。極端な事例では、法執行機関がテロや犯罪者の疑いを追跡するのに役立つ」とア



クシス・コミュニケーションズ社国際製品責任者アンドレス・ヴィグレンは述べている。

「法執行機関は、LPRを使用して盗難車、指名手配者、および免許停止や免許取消処分の運転者を探ることができる。薬物/密輸品発見もLPRでも可能だ」とレオナルド/ELSAG ALPRソリューションズ社マーケティング担当副社長ネイト・マロニー氏は話す。

市営駐車場

都市特に急速に成長している都市の駐車場の管理には課題があり、LPRもこの点で役に立つ。「手動で確認する時間制限のある駐車場は貴重な時間がかかる。ALPR技術は駐車運営を簡素化する。場内管理者は、支払方法で駐車場代金が支払われたかどうか、どの車両が違法駐車されているか、および係員をどこに派遣するかを迅速かつ容易に確認できるようになることで、全体的な効率を向上させることが可能になる」とジェネテック社取扱製品責任者ロバート・アマンテ氏は説明する。

交通管理

LPRシステムが生成するデータは、市職員が通行を管理および改善するための貴重なデータを提供する。「LPRシステムの収集するデータは、都市の周りや都市全体の車両の台数と動きを分析することにより、都市計画や交通管理に使用することができる。移動時間について、多数のLPRカメラの場所でタグを照合して遅延パターンを理解し、異常な台数や減速に関する通知を行うことが可能だ」とコンバージント社スマートシティ・プラクティス責

任者スコット・フリガード氏は説明している。

その他のアプリケーション

その他の適用事例として、境界制御とトンネル監視がある。また、LPRが提供するデータは、セキュリティおよびビジネス情報化の目的で使用することができる。「カジノ来訪者の監視では、LPRは犯罪リスト掲載者や入店禁止ギャンブラーに対してチェックするために使用することができる。スーパーマーケットは、LPRを使用して、例えば障害者や視覚障害のある顧客のように援助を必要とする来訪者をスタッフに通知することができる」とVaxtor リコグニション・テクノロジー社CTOローソン・ノーブル氏は述べている。



システム構築者の例

南アフリカに拠点を置くシステム構築企業IPセキュリティ・サービス社知的財産セキュリティ・サービス部長ウォルター・カニッツ氏は、「国立公園やショッピングモールにおけるLPR事業に携わっている」と述べている。

同社はまた、法執行機関向けLPR案件も担当している。「我々は現在、地元の法執行機関の一部の車両や管制室から監視しているモバイルLPR導入で多忙だ。密猟防止の犯罪取り締まりも南アフリカ全体の広大な市場となっている」と話す。

さらに「全国のナンバー・プレートのデータベースを利用している。疑わしいプレートはデータベースに追加され、車両に赤旗印をつけ、犯罪に参与している場合に追跡することができる。犯した罪状に応じて、異なるレベルが割り当てる。このデータベースは非常に安全で、全ての登録情報は二重に検証し、誤りが発生していないことを確認している」と付け加える。

カメラ: LPRのコア・コンポーネント

LPRシステムの構成機器には、カメラや適切なプロセッサ上で実行されているLPRエンジン、ストレージ・メディアやIPリレーそして音響機器などのオプション製品が含まれている。

その中でも、カメラは最も重要な構成機器であり、一年を通して外環境で24時間プレートを読み取る目的で役割を果たしている。そのため、堅牢なハイエンド・カメラが必要となる。

「一般の廉価な市販カメラでは十分ではない。低速の一車線での低価格カメラのデモや、周囲光の良い停車した通行を見ることはできるが、システムはあらゆるナンバー・プレートに対して年中無休で動作する必要がある。「カメラは、2つのレンズを備えた専用LPRカメラか、正しくセットアップする必要があるハイエンドCCTVカメラのいずれかでなければならない」とノーブル氏は指摘している。



ジェネテック社取扱製品責任者
ロバート・アマンテ氏



NWセキュリティ・グループ社
技術部長ケビン・ポウヤー氏

オンボード・エンジンとリモート

LPR解析は、カメラとカメラに搭載したプロセッサ、またはバックエンド・サーバのいずれかに装備することができる。ますます多くのカメラがLPRエンジンを搭載し、様々な理由によりますます人気が高まっている。

「プレート読み取りデータだけをネットワーク上で転送する必要があるため、全ての画像処理と解析がユニットで行われるため、ネットワークとサーバのデータ負荷が減少する」とアマンテ氏は述べている。

「通常、LPR分析を搭載したカメラは、サーバ上のカメラよりも正確であることがわかった。サーバ上で認識を行うシステムは、最も要求の厳しいシナリオを除いて十分に正確だが、システムに追加機器を導入すると、システム管理が複雑になり、システム管理が困難になるか、維持費用が高額になる可能性がある」とポウヤー氏は解説する。

ノーブル氏は、カメラでLPRを実行する上での幾つかの注意事項を挙げている。「一部提供企業のOCRソフトウェアは、主に放熱上の理由でパワー・プロセッサが低下すること、LPRエンジン設計の非効率性が原因でインテリジェント・カメラでうまく動作しないことに注意すべきだ」と指摘して、「一部のインテリジェント・カメラは、3mの1車線しか処理せず、幅広な車線を2車線と読み取ったり、対面走行や複数装備した地域プレートに対応するこ

とはできなかったりする」ことを挙げている。

カメラの要件

LPR アプリケーションで使用するカメラは、専用の LPR カメラでも、ナンバープレート認識用に微調整されたハイエンドカメラであっても、最大限の結果を得るには様々な要件を満たす必要がある。覚えておくべき重要なポイントは、認識プロセスが効果的に動作するために、カメラで撮影された画像が十分に明確かつシャープでなければならないことだ。



IPセキュリティ・サービス社部長
ウォルター・カニッツ氏



コンバージント社
スマートシティ・プラクティス責任者
スコット・フリガード氏



キントロニクス社副社長
デニス・ガレン氏

カメラ搭載センサ

ノーブル氏によると、センサを適正に選択することが最も重要な要素だという。「新しいソニー製IMXセンサは、厳しい光条件にうまく対処する。ピクセル密度の向上は、1/3型や同等のセンサが古い1/2型センサよりも数段優れていることを意味し、新しいソニー製IMXセンサはより多くの光を入れることができる」と同氏が語っている。

同氏はまた、特定アプリケーションが物陰にある物体対応の場合、850nm以上の範囲でIR照射を使用することを考慮して、センサがIRに敏感でなければならないことも付け加えている。そして、「完全に隠れた画角の中には、全く見えない940nmの照射を必要とすることから、センサはより高価になる。光周波数が増加するにつれて、カメラの画角は劇的に狭まる」ことを指摘している。

照射

カメラは昼と夜のナンバープレートをキャプチャする必要があるため、照射は重要な要素となる。「光は、ナンバープレートの鮮明な画像をキャプチャするために不可欠な要素だ。そのため、組み込むIRは夜間でも最適なALPRを可能にする有用な部品だ」とヴィグレン氏は話す。

ノーブル氏は「全てのカメラは暗闇の中で動作する必要がある。一部機種は独自のIR照射を装備している。装備していない場合は、これを追加する必要がある」と挙げ、「真のLPRカメラを使用する場合、IR照射は非常に重要だ。表面実装LEDは、多くの場合正しいレンズと拡散器を取り付けて、大きな円ではなく長方形に均等に照射を広げる必要がある」と説明している。

一方、ジェネテック社では、標準仕様でないナンバープレートをキャプチャするために異なる照射波長を使用できるようにアダプタしている。「例えば、赤い文字のプレートはIR照射には適

していない」とアマンテ氏は説明している。

ノーブル氏は「一部のナンバープレートは非レトロ反射(例えばUAE)で、正しく読み取るために白色光が必要となる。フロリダに存在するオレンジやグリーン金属プレートは実に厄介なので、人間が赤い輝きとして見ることができる750nmが頻繁に使用されている」と話している。

解像度と圧縮

画像の解像度はもう1つの注意すべき重要な留意点だ。「画質はナンバープレートのキャプチャする上で重要な要素で、解像度が1080pを下回ってはならない」とヴィグレン氏は述べている。

一方、ノーブル氏は、必要以上に高解像度を使用しないことが重要だと警告している。「標準的な EU プレートの OCR には、車線幅1 mあたり約 256 ピクセルが必要なため、車線幅3mでは 768p に相当する。新しい4K解像度のカメラを使用している場合は、1つの車線に対して解像度を1020pまたは1280pに設定する必要はない画像が大きいほど、不要なピクセルをすべて処理してシステムをゆっくりと処理してしまい、ナンバープレートを完全に見逃す可能性がある」と同氏は忠告している。

また、同氏は、ほとんどの現代のカメラはIPベースであり、MJPEGまたはH.264でデータを送信することができるが、圧縮は最小限に抑える必要があると言う。「受信画像は人間に見栄えが良いかもしれないが、圧縮画像を拡大した場合、「プレートの破損や汚れまたは反射していると、OCRエンジンに支障をきたす」と指摘している。

環境

カメラは、外部環境で24時間365日効果的に動作するためには頑丈でなければならない。専門家によると、IP67適合していれば、ほとんどの場面で十分対応することができる。

ノーブル氏は、カメラはレンズを太陽から保護し帯熱を減らすために、日射対策を施す必要がある点を付け加え、「白色ハウジ

ングや冷却機能の付いたされたハウジングが酷暑環境で使用されることが多い。「直方体の筐体は、時にはレンズを道路からの汚水から防護するためにも必要だ」と述べている。

カメラにナンバー・プレート認識をインストール

適切な設置は、インストールの品質がシステムの性能と有効性を決定するライセンス・プレートの認識に重要な役割を果たす。インストールでは、カメラを正しく設定する方法が特に重要だ。

カメラの設置場所やカメラの設置角度などの様々な要因が、キャプチャされる画像の品質や、認識プロセスの性能に影響する。

読み取り距離

車両とカメラ間の距離は、設置条件やユーザの要件によって異なる。ALPRカメラは最大約36mの距離を読み取ることができるが、遠くのナンバー・プレートを読み取るうとすると、車が複数台重なるなど、より多くの変数が作用する。

ノーブル氏は、自身の経験則として、キャプチャ距離はカメラの高さの約3倍以上でなければならないと述べ、「例えば、破壊行為を防ぐためにカメラの高さが3メートルでなければならない場合、捕獲距離は9メートル以上離れているべきだ」と説明している。

角度

カメラが車両に向ける角度も重要だ。ユーザは2つの角度を考慮する必要がある。カメラの縦軸と車両が移動する平面の間の垂直角と、カメラの縦軸と車両の縦軸の間の水平角で、その角度は浅いほど良い。「私の経験則では、パンとチルトを30度以内にすることが必要だ」とアマンテ氏は話している。

カメラの位置

カメラを遮蔽物付近に配置する場合、前ではなく後ろに配置する必要がある。車両は停止する前に視野を通過する可能性がある



▲ LPR用カメラは、様々な気象条件に耐えられるように堅牢でなければならない



レオナルド ELSAG ALPRソリューション社マーケティング担当副社長ネイト・マロニー氏



Vaxtor リコグニション・テクノロジー社CTO ローソン・ノーブル氏

あるからだ。

ノーブル氏は、「何らかの理由でナンバー・プレートを誤読した場合、再度読み取ることはできない。遮蔽物の高さが上がると、カメラを取り付けたアーム部が接近する車両のナンバー・プレートを覆い隠す可能性がある」と注意を喚起し、「一部の画面では車両の走行が車線をまたいでいるか、鈍角でサイトの入り口に近づいている可能性がある」と付け加えている。

さらに同氏は「カメラをさらに後方に配置できないため、走行をまっすぐにする時間が長くなる場合、2つのことを試すことができる。入り口を横切る2つのカメラを使用して極端な角度に対応し、交通管理を使用します。これには、スピード防止帯による誤認と車線表示の2つの方法がある」とも述べている。車線の端を白または黄色のペイントでマークするだけで、走行車両が正しい角度から接近するように促すことができるからだ。

ピクセル数

ノーブル氏によると、キャプチャされたナンバー・プレート寸法は非常に重要で、これを測定する最良の方法は、各文字のピクセル単位の高さを使用することだと言う。

「優れたソフトウェアは、高さ12ピクセルまでのプレート文字を読み取るが、一般的に最適な認識は、20~30ピクセルの大きなサイズで得られる」と彼は説明し、「したがって、この文字の高さを実現するには、正しいレンズを使用することが重要となる」と述べている。

また、同氏は、クライアントサイトに広い入口がある場合は、HDカメラを使用する必要があると言う。

「解像度1280ピクセルのANPRカメラは、どんなに良いものであっても、幅6mの車線幅でナンバー・プレートを読み取ることはない。この場合6 x 256 = 1536ピクセルが必要になるため、EUプレートの場合は1600か1920ピクセル、米国サイズのプレートの場合は1920ピクセルが必要になる」と言う。

その他のポイント

LPRシステムを設置する場合、コミュニティのメンバーからの抵抗だけでなく、電力と通信の問題も問題になる可能性がある。電力、通信、取り付け構造は、LPRシステムの設置における最大の課題だ。

十分な電力の確保は常に懸念すべき事項だ。通信は、カメラ・データと通知を適切な場所に送信するのに十分でなければならない。

クレードル・ポイントやシエラなどの携帯無線は、顧客がカメラ設置場所への有線通信を持っていない場合、LPR案件で最も一般的な通信プラットフォームとなる。設置場所は最も難しい展開になる可能性がある。交通信号柱や電柱、橋やトンネル、標識など全てには、所有権とそれぞれに設置できるものに関する問題がある。

主な問題は、距離、軌跡、角度を考慮して、カメラに最適な場所に設置する許可を得ることだ。一部の居住者、特に住宅地

で設置する人は、敷地内の設置の審美性に非常に細心の注意を払っている。

結論として、全ての導入には異なる目的と要件があり、LPRシステムを設計する際には、設置者がこれらの要件を完全に理解することが重要となる。

車両がいつ射撃されるかを考え、ナンバープレートが常にこの視野

内にあるかどうかを予測する。現場で車両を見る時間をとり、検出ポイントを通過する車両の映像を録画して、車両の位置のばらつきを理解しておく。車両の速度と、車両の速度を落とすために、または視界内での位置に影響を与えるために、走行を抑える手段が必要かどうかを検討する。



アクシス・コミュニケーションズ社
国際製品責任者
アンドレス・ヴィグレン氏



モバイルLPRに関する一言

カメラが固定されているLPRシステムについては、長さについて説明しなければならない。ただし、LPRシステムは移動式の可能性があり、それによりカメラが移動車両の上に設置されることを確認することが重要だ。

「パトロールカーやバス、公共工事車やゴミ収集車などの車両にLPRカメラを取り付けて、カメラの視野に入る全ての車両のタグを受動的にスキャンすることができる。スキャンした車両は、通常の業務を行っている市内を走行している。キャプチャされた各タグは、クラウドまたは中央施設のLPRサーバにアップロードされ、進行方向に応じてタグの時間、場所、画像、車両の後方または前方の概要画像を記録する。

コンバージント社スマートシティ・プラクティス責任者スコット・フリガード氏は次のように述べている。「登録後、LPRシステムはデータベースに対して各タグを確認し、タグが犯罪違反一覧表、幼児誘拐/行方不明者警報、盗難車両、未登録車両、無保険の運転手、駐車違反などに一致した場合に警察に通告することができる。モバイルLPRの利点は、多様な地理的領域をスキャンし、将来の調査のためにデータベースに情報を保持する柔軟性だ」。

フリガード氏は、「見本市、スポーツイベント、フェスティバルなどのイベントは多数の訪問者を引き込み、警備本部は駐車場を駆け抜けて全てのタグを取得し、既知のスリや指名手配

者またテロリストに警告することができる」と話すも、「モバイルLPRのマイナス面は、車両が移動中で走行中時にだけカメラがスキャンするため、持ち帰りパトロールカーのLPRシステムは、警官が勤務外のときにスキャンしないことだ」とも語っている。

モバイルLPRの重要性が広まっていることを考えると、その設定方法は設置者にも知らせるべきだ。「モバイルLPRシステムは、通常は車のトランクにあるプロセッサに接続された最大4台のALPRカメラで構成され、ALPRソフトウェアを含むオンボード・コンピュータに接続されている。

レオナルドELSAG ALPRソリューションズ社マーケティング担当副社長ネイト・マロニー氏は、モバイル環境では、通常、屋根の上でカメラを45度の角度に設置すると述べている。ジェネテック社取扱製品責任者ロバート・アマンテ氏は、「LPRカメラは、パトカーやバス、公共事業車やゴミ収集車などの車両に搭載でき、カメラの画角に入る全車両のタグを受動的にスキャンすることができる。スキャンした車両は、市内を走行することが可能で、キャプチャされた各タグはLPRにアップロードされる」と述べ、「スキャンした車両が向いている方向に応じて、タグの時間、場所、画像、車両の後方または前方の概要画像を記録するのは、クラウドか中央施設かのどちらかのサーバだ」と付け加え、モバイルLPRの利点は、地理的領域の多様性をスキャンし、将来の調査のためにデータベースに情報を保持する柔軟性だと説明している。

AI とセキュリティ映像解析の概要

イーグルアイネットワークス社創業者兼CEO ディーン・ドレイコ

過去10年間、セキュリティ映像解析技術は、映像解析の研究開発に対する世界的な高額な投資から大きな恩恵を受けています。多くの業界で、新世代のセキュリティ映像解析は、人工知能とディープ・ラーニング(深層学習)技術を活用しています。その結果、新しい解析製品は前世代よりも遥かに多く存在し、その効果も絶大です。顔認識における解析は、複数のデータベース間で瞬時に行うことができます。車両ナンバー・プレート認識は、今では時速250キロ以上の速度で動作します。

解析技術の向上により、セキュリティ映像カメラの解析で、セキュリティ監視とともに有益な情報を提供できるようになりました。その幾つかを下記に挙げます。

- 自動走行車両
- 最先端運転支援システム
- 小売店舗のセキュリティと運用解析
- 輸送システム
- セキュリティと顧客の顔認識
- 農業・畜産経営
- 食品・医薬品製造
- サプライ・チェーンのセキュリティと流通
- 産業安全コンプライアンス
- 食事の調理
- フリート・マネジメント(所有車両管理)
- イベント管理とセキュリティ
- 野生生物管理
- 博物館の資産保護
- ロボット・ビジョン
- 安全都市
- 学校のセキュリティ
- 動物園における動物福祉

正確性と有効性

映像解析技術の進歩は、定点でのセキュリティ監視の要件よりも遥かに厳しい要件領域となっています。例えば、複数カメラを使用する最先端運転支援システムでは、特定の車両通行経路および周囲の交通状況の中で、各カメラの視野が100%連続的に変化する可能性があり、1秒間に何度も正確に解析する必要があります。これは、セキュリティ映像解析が必要とするよりも数段多くの作業です。そして、高性能の高速解析のた

めに非セキュリティ領域での要求を満たすことが、セキュリティ映像解析が以前までの機能や性能レベルを遥かに超えて進化した技術になった理由の1つです

セキュリティ映像解析ベンダーは、列の長さや人数を計数する映像解析の精度が90%~95%であると報告しています。このレベルの精度により、銀行や小売店、スポーツ施設やレストランでの顧客サービス管理の多くの側面を自動化する上で十分な信頼性が確保できています。

AI、機械学習、ディープ・ラーニング

AI(Artificial Intelligence:人工知能)は、機械がインテリジェントな意思決定や行動を行うことを可能にする技術です。映像解析の場合、この意思決定というのはカメラが監視している範囲に人が侵入した場合、映像システムはアラームを発報する必要があるかどうかということになります。



機械学習(マシーン・ラーニング)は、コンピュータがその学習のために明示的にプログラムされることなく学習することができるようにする人工知能機能の一種です。機械学習機能を備えた新しいカメラを例に考えると、最初は雨や雪を認識するようにプログラムされていません。しかしながら、そのカメラは、その雪や雨が背景シーンの一部ではないことや、関心のある項目ではないことを自動的に判断します。それにより、この例では雪や雨が動体検知処理を発動させることにはなりません。また、同時に人や車の動きに対しては、雪や雨の中でも正確に動体検知を察知し続けます。

ディープ・ラーニングは、自動学習工程で精度の詳細を認識する高度な機械学習技術で、複雑なコンピューティング解析

を実行して予測的な結論を出します。例えば、映像監視でのディープ・ラーニング機能は、異常な動きや異常な行動パターンを認識すると同時に、関係者や車両に関する説明情報を収集することができます。一例を挙げると、グループ内の人数や髪の色や衣服の色、一緒に駐車した車両数、車両の種類や色、ナンバー・プレート番号などです。

メタデータ(データに関するデータ)と呼ばれるこの説明データを使用するテキスト・ベースの検索は、画像ベースの検索よりもはるかに高速で、画像ベースの検索に比べてコンピュータの処理能力への依存が比較的少なく済みます。

ディープ・ラーニングは高度な機械学習であり、どちらも人工知能の範疇です。現代のインテリジェント映像解析ソフトウェアは、機械学習と時にはディープ・ラーニングを使用しています。



• 小売業界用映像解析

当初、小売業界では、万引や従業員の不正行為などに起因する損失(流通業界ではロスと表現)を軽減するために、映像解析とIPカメラ技術を採用してきました。現在、小売業界用映像解析は、事業の成長には重要なツールでもあります。映像解析を組み込んだ映像管理システムは、顧客の行動やマーケティングおよびセールス・キャンペーンの効果に関する傾向分析を提供できます。顧客は広告されていた製品を他のブランドと比較したか、顧客はブランドでなく具体的なアイテムを選んだのか、などです

顧客行動の映像解析では、各店舗の場所内でのピーク時間、動線パターン、および高い稼働ゾーンを識別します。この情報は、小売業者がスタッフ配置を最適化して、サービスおよびレジ・カウンターでのお客様の待ち時間を短縮するのに役立ちます。映像解析データをリアルタイムで使用して、サービス品質と顧客優遇を向上させることができます。例えば、顧客が特定の展示商品で通常より高額を支払う場合、映像解析アラートが商品の選択を支援したり、特定の商品の店舗返品指針に関する質問に答えたりするよう店員に促すことに繋がります。

その他の映像解析

バーチャル・フェンス(コンピュータ上の仮想の柵)と、物体検出および残された物体の解析の組み合わせには、多くのアプリケーションがあります。運搬管理や倉庫車両の安全規則に違反した場合、産業安全のために監督者に警告を発し、特定の違反の証拠を提供することができます。

行動認識と徘徊規定とを組み合わせたバーチャル・フェンスは、学校の敷地内で不審な活動の発生時にセキュリティ担当者に警告することができます。資産安全区域は、保護している博物館の展示物に近づき過ぎると自動的に訪問者に警告するよう、博物館の展示品周辺に定義することができます。

多くの医薬品製造工場では、セキュリティ監視よりも高速製造ラインの運用を監視するためにより多くのカメラを使用しています。生産ラインのシフト変更検査では、重要な品質管理が受け入れられない状態を見つけることがあります。例えば、密閉された生産ラインの検査ドアが開いたままになっている場合、録画映像を使用して、ドアが開かれた正確な時点を見つけることができます。これにより、少量の製品のみを廃棄する必要があります。そのような事件における節約は、2,500万円を超える可能性があります。さらに、最新の映像解析では、このようなドアが開いたままになっている時間が長すぎると警告を発することができます。

カメラベースのロボット目視検査は、人間にとって危険な条件で検査を実行する必要がある産業での安全確保に応用することができます。

これらは、セキュリティ管理者と幹部にとって映像解析が業務に役立つ方法を学ぶ必要がある理由のほんの一例です。

解析用コンピュータはどこにあるのか?

このような映像解析処理を実行する場所を選択できるようになりました。

- カメラ内
- オンプレミス・サーバ内
- クラウド映像解析システム内
- 最初はカメラ内で、その後にオンプレミス・サーバまたはクラウドで追加処理

ほとんどのセキュリティ映像カメラは、組み込みLinuxオペレーティング・システムを実行しているコンピュータです。そのため、一部の映像解析アプリケーションは、カメラ自体で実行できるカメラ用アプリケーションとして提供されています。カメラ・ベースの解析では、カメラの映像処理用半導体を使用します。

低解像度の映像ストリームが監視および記録のために送信される場合でも、カメラ上の映像解析は、カメラが生成する最高の映像解像度の画像を処理します。

インストールされたカメラで映像解析処理を実行すると、映像解析サーバ処理の必要性が排除または削減されます。特定のカメラに搭載されている解析を使用できるかどうかは、カメラの処理能力とカメラの設定の構成に依存します。

最新のカメラベースの映像解析は、カメラの画角とその範囲にある対象物のデジタル・モデルを作成します。このデジタル・モデルはカメラで構築および更新され、その情報がオンプレミスまたはクラウド内の映像解析サーバに送信されます。デジタル・データは、解析処理するために、サーバではなく、映像用のテキスト情報です。これにより、最新の映像解析サーバは、生の映像ストリーム・データを処理する必要がある場合、多くのカメラの映像解析を処理することができます。機械学習技術あるいはディープ・ラーニング技術は、デジタル・モデルを洗練するために使用されています。



一般に、カメラの映像解像度と映像FPS(秒あたりフレーム数)が高いほど、カメラのCPUが実行する必要がある映像処理数が多くなり、映像解析などのカメラ用アプリケーションで使用できる処理能力が減少します。そのため、既存のほとんどのカメラは高度な映像解析を実行することができません。

カメラの処理能力不足は、クラウド・ベースの映像分析が一般的になりつつある理由の一つです。クラウドVMSシステムには、オンプレミスの映像解析サーバや映像解析ソフトウェアを実行するカメラを必要とせず、映像解析処理を簡単に実行するのに十分な処理能力を有しています。

シンプルさ、柔軟性、コスト

カメラが初期段階の映像解析処理を実行できるかどうかに関係なく、映像解析の採用に最も簡単に取り組む方法は、映像解析を提供するクラウドVMSサービスを受けることです。これにより、ユーザは映像管理と映像解析を単一のインタフェースで

利用することができます。

クラウドVMSは、解析を自由にオン/オフする機能を利用して、永続的または定期的な使用を採用することを決定する前に、特定の解析を試すことができます。この機能により、特定期間の解析として使用することもできます。例えば特定の映像解析を実行したり、店舗での特別な販促活動の結果を追跡したり、短期間の建設作業やその他の特別な活動をカバーしたりする場合などです。クラウド VMS使用料金は、解析を実行する月単位の使用期間に対してのみ支払います。

クラウド・コンピュータ資源の弾力性により、クラウド・ベースのVMSシステムは、実行する解析数や処理する映像場面の映像量に関係なく、常に十分な処理能力が利用できることを保証します。対照的に、オンプレミス・システムは、映像処理機能を向上させるために定期的に更新する必要があります。オンプレミス機器の制約により、特に映像解析技術の急速な進歩を考えると、映像解析の使用が制限される可能性があります。また、映像解析を備えて適切に設計されたクラウドVMSサービスと比較して、オンプレミス・ソリューションは、総所有コストが最も高いものとなります。

映像解析の未来

映像解析には、世界各地から多額の資金が引き続き投資されています。AIとディープ・ラーニング技術は、セキュリティの確保と事業展開の両方を目的として、セキュリティ映像解析の進化に貢献しています。慎重な事業決行者は、既に事業として成功を収めている映像解析を精査し、映像解析が事業展開の上でどのような有益な活用例を生み出しているかを判断すべきでしょう。



■ 筆者紹介

ディーン・ドレイコ氏は、世界最大のクラウド・ベースの映像監視企業Eagle Eye Networks社創業者。同氏は、他にも複数の優れたセキュリティ関連企業を設立した。また、Eagle Eye Networks社だけでなく、クラウド・ベースのアクセス・コントロール企業ブリヴォ社のオーナー兼会長でもある。

ドレイコ氏は、それ以前に、バラクーダ・ネットワークス社の創設者兼社長兼CEOとして、最初のEメール・セキュリティ・アプライアンスや様々なサイバー・セキュリティ製品を開発した。同氏はミシガン大学アナーバ校電気工学科学士号、カリフォルニア大学バークレイ校電気工学科学修士号を取得。

金融グループのゴールドマンサックスはディーン・ドレイコ氏を「2014年の最も魅力的な起業家100人」の一人として挙げた。

質問:イーグルアイネットワークス株式会社について教えてください。

回答:イーグルアイネットワークス株式会社は2012年に設立された米国Eagle Eye Networks Inc.の日本法人で、クラウド映像監視ソリューションのリーディング・プロバイダです。

Eagle Eye Networksの提供しているEagle Eye Cloud Security Camera VMSは、クラウドとオンプレミスによる記録、金融業界でも通用するレベルのセキュリティ暗号化機能を搭載し、アナログカメラ、デジタルカメラのどちらにも対応しています。クラウド映像監視ソリューションはお客様のビジネスをよりセキュアに、そして運用を最適化する機能を搭載しています。

質問:Eagle Eye Cloud VMSの特徴は何ですか?

回答:Eagle Eye Cloud VMSは、複数のロケーションを持つ企業が、いつでも、どこからでも、映像にセキュアにアクセスするのに最適なソリューションです。Eagle Eye Cloud VMSは100%クラウド上で管理されており、モバイルやWebブラウザで管理が可能です。保存期間や利用用途に合わせて柔軟にご利用いただけます。

Eagle Eye Cloud VMSは、Eagle Eye Cloud Video APIをベースに設計・構築されており、アクセス・コントロール・システムなどの様々な異なるタイプのシステムに対しても柔軟に対応いたします。サイバー・セキュリティ対応、いつでもどこでも映像監視が可能なモバイルアクセス、指先ひとつでいつでも使える最新機能で常に最新を維持、拡張性を備えたスケーラブルな設計が特徴です。

質問:クラウド内のデータはどれくらいセキュアですか?

回答:イーグルアイネットワークスは、Eagle Eye Cloud VMSならびにEagle Eye Video APIプラットフォームで実装されており、完全なプライバシー暗号化でもって監視映像を暗号化してセキュアに保ちます。全てのデータは、クラウドへ転送中ならびに転送の待機でも、金融業界レベルの暗号化を実装し、フロントからエンドまで、セキュアに保つことができます。

イーグルアイネットワークスのインフラストラクチャはサードパーティ・ベンダーによる管理ではなく、完全に映像監視用に設計された、イーグルアイネットワークスのエキスパートにより、完全に管理されています。イーグルアイネットワークスは、高い信頼性、応答性、セキュアなクラウド映像監視ソリューションを提供しています。Eagle Eyeのオープンアーキテクチャには、広範なカメラ互換性、堅牢なソリューションの統合、機械学習と人工知能が備わっています。

質問:将来のAIアプリケーションに、今Eagle Eye Cloud VMSを採用する利点は何ですか?

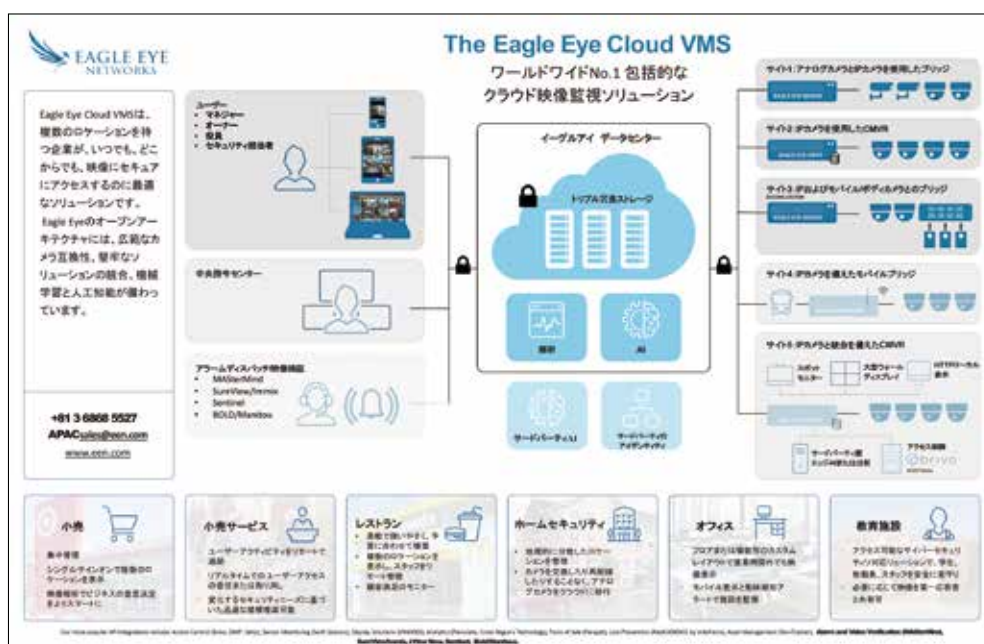
回答:EENのAIベースの解析はクラウド・ベースです。将来的にはユーザがいつでもクラウドで遠隔地からでも利用できるようになります。エンドユーザは、Eagle Eye Cloud VMSの新しい機能を利用するために、将来デバイスを追加で購入する必要はありません。したがって、EENのクラウドベースのVSaaSソリューションを採用するのは、今が最適な時期です。

質問:イーグルアイネットワークスの製品・サービスの販売方法を教えてください。

回答:弊社では、エンドユーザへ直販は行っておりません。販売については、チャンネル・パートナー経由となりますが、弊社もパートナーと密に連携を取って対応いたします。エンドユーザ様には、最善な弊社チャンネルパートナーと連携し、ご連絡いたします。

**イーグルアイ
ネットワークス株式会社**

〒150-0034
東京都渋谷区代官山8-5
代官山8.5ビル4階
TEL: 03-6868-5527
E-MAIL: APACsales@een.com



11月

Embedded Technology 2019 /
組込み総合技術展IoT Technology 2019 /
IoT総合技術展

会期:2019年11月20日~22日

開場:10:00 - 17:00

会場:パシフィコ横浜

主催:一般社団法人 組込みシステム
技術協会URL: <http://www.jasa.or.jp/expo/>

HOSPEX Japan 2019

「病院設備機器展」、
「介護・福祉設備機器展」、
「病院・福祉給食展」、「医療・福祉機器開発テクノロジー展」、
「ホスピタルサウンドソリューション展」

会期:2019年11月20日~22日

開場:10:00 - 17:00

会場:東京ビックサイト西館

主催:一般社団法人日本医療福祉設備協会
一般社団法人日本能率協会URL: <https://www.jma.or.jp/hospex/>

第6回鉄道技術展2019

会期:2019年11月27日~29日

開場:10:00 - 17:00

会場:幕張メッセ 5-8ホール

主催:フジサンケイビジネスアイ

URL: <http://www.mtij.jp/>

12月

国際画像機器展2019

会期:2019年12月4日~6日

開場:10:00 - 17:00

会場:パシフィコ横浜

主催:日本画像・計測機器協議会

URL: <https://www.adcom-media.co.jp/ite/>

2020年1月

CES 2020

会期:2020年1月7日~10日

開場:10:00 - 17:00

会場:ラスベガス コンベンション&
ワールド・トレード・センターなど
8会場

米国ネバダ州ラスベガス

主催:Consumer Technology
Association (CTA)URL: <https://www.ces.tech/>

INTERSEC Middle East

会期:2020年1月19日~21日

開場:10:00 - 17:00

会場:ドバイ国際会議展示場
アラブ首長国連邦ドバイ

主催:MESSE FRANKFURT

URL: <https://intersec.ae.messefrankfurt.com/dubai/en.html>

2020年3月

SECURITY SHOW 2020

会期:2020年3月3日~6日

開場:10:00 - 17:00

会場:幕張メッセ1・2・3ホール

主催:日本経済新聞社

URL: <https://messe.nikkei.co.jp/ss/>

リテールテックJAPAN 2020

会期:2020年3月3日~6日

開場:10:00 - 17:00

会場:幕張メッセ1・2・3ホール

主催:日本経済新聞社

URL: <https://messe.nikkei.co.jp/rt/>

フランチャイズ・ショー 2020

会期:2020年3月3日~6日

開場:10:00 - 17:00

会場:幕張メッセ1・2・3ホール

主催:日本経済新聞社

URL: <https://messe.nikkei.co.jp/rt/>

INTERSEC Building

会期:2020年3月8日~13日

開場:10:00 - 17:00

会場:フランクフルト・メッセ
ドイツ連邦共和国ヘッセン州
フランクフルト・アム・マイン

主催:MESSE FRANKFURT

URL: www.intersec-building.com

ISC WEST

会期:2020年3月18~20日

開場:10:00 - 17:00

会場:米国ネバダ州ラスベガス
サンズエクスポ

主催:Reed Exhibitions

URL: <https://www.iscwest.com/>

2020年4月

SECUTECH Expo 2020

会期:2020年4月22日~24日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:台北南港国際展覽館
台湾台北市南港区経貿二路1号主催:Messe Frankfurt New Era
Business Media Ltd.URL: <https://10times.com/secutech-expo>

データセンター&ストレージ EXPO

会期:2020年4月8日~10日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト

主催:リードエキジビションジャパン

URL: <https://www.japan-it-spring.jp/ja-jp/about/dse.html>

クラウド業務改革 EXPO

会期:2020年4月8日~10日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト

主催:リードエキジビションジャパン

URL: <https://www.japan-it-spring.jp/ja-jp/about/cloud.html>

IoT/M2M展

会期:2020年4月8日~10日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト

主催:リードエキジビションジャパン

URL: <https://www.japan-it-spring.jp/ja-jp/about/iot.html>

オフィス セキュリティ EXPO

会期:2020年4月15日~17日

開場:10:00 - 18:00(最終日は17:00)

会場:東京ビックサイト 青海展示棟
南展示棟

主催:リードエキジビションジャパン

URL: <https://www.office-expo.jp/ja-jp/about/osec.html>

2020年5月

SECUTECH INDIA 2020 &
Fire and Safety India 2020

会期:2020年5月7日~9日

開場:10:00 - 17:00

会場:ボンベイ・エキジビション・センター
インド共和国ムンバイ市主催:Messe Frankfurt New Era
Business Media Ltd.URL: <http://secutechexpo.com/index>

青色文字の海外展示会についてはASJ合同会社までお問い合わせください。

赤色文字の展示会への出展についてはASJ合同会社が出展申込取り扱いを行なっています。

■問い合わせ先

ASJ合同会社

TEL・03-6206-0448

E-MAIL・komori@asj-corp.jp

セキュリティ・システムの諸刃の剣と化することを懸念する

日進月歩で進化し続けている映像監視を中心としたセキュリティ・システムは、自身の安全や安心を確保したり維持したりする上で重要であることに異論はないだろう。しかし、その運用の仕方次第では、個人情報の漏洩や濫用が危惧される。

EUにおいては、GDPR (EU一般データ保護規則)が2018年から施行されている。一方わが国においては、個人情報の保護に関する法律(略称:個人情報保護法)が2005年から施行され2015年に改定されているものの、事業者による個人情報漏洩に対する直接の罰則はない。しかし、現状は法律による規制に抵触するような行為は善意でも発生する恐れがある。

そこで、提案したいのは、セキュリティ関連団体やセキュリティ機器製造および販売会社は、分かりやすいガイドラインを設定して、個人情報を保護する行動を率先してとるべきではないか。

そして、情報漏洩を防止するためにIT関連団体とも連携すべきではないだろうか。

なぜならば、セキュリティ・システムによって得られる情報は、使い方次第で諸刃の剣となるのだからだ。

(千葉 公務員)

建造物の出入口だけでなく通路にも防犯カメラの設置を

大きなオフィスビルや商業施設、最近ではマンションの出入口にも何らかのセキュリティ対策が施されている。さらに警備会社による警護サービスを利用している場合もある。しかし建物内部とりわけ通路や非常階段には余り配慮がなされていない。様々なイベント発生を防止するには、もはや出入口だけでなく、不特定人物が往来するスペースやホテル客室の通路などにも防犯カメラを設置することが喫緊の課題だろう。

さらに、最近発生している様々な事件をみて、規模の小さな雑居ビルでも、防犯カメラだけでなく入退室システムも設置して外部からの侵入を許さない対策を講じる必要がある。これはビル所有者や管理会社の責任と理解すべきことだろう。

(東京 管財会社)

「読者の声」を募集しています。

本誌では、セキュリティに関する読者の皆様のご意見やご提案を募集しています。セキュリティ機器やシステムを供給している側、セキュリティ・システムを既に導入あるいは導入を予定している側、いずれの側からの応募をお待ちしています。ただし、特定企業や団体または個人に対する誹謗中傷または批判的な内容をご遠慮ください。

一例を挙げると、導入する場合の手順はどのように進めれば良いのか。導入前の事前説明についてはどこに相談すべきなのか。メーカーなのか販売会社なのか、システム構築企業や設置施工企業なのか、それともセキュリティ・コンサルタント企業なのか。セキュリティに関する疑問や意見また提案など、セキュリティ関連であれば詳細は問いません。掲載する場合は匿名扱いとしますので、個人情報が漏洩することはありません

なお、具体的な導入相談については、導入条件や環境についてできるだけ具体的な内容をご連絡ください。ご応募をお待ちしております。



a&s JAPAN編集部

TEL : 03-6206-0448

FAX : 03-6206-0452

MAIL : info@asj-corp.jp

災害管理を強化するスマートなソリューション

第19回Fire & Safety展は、アジア太平洋地域の火災安全および災害管理双方の専門家を結びつけると、高い評価を得ているイベントです。



スマート防火と安全

スマート・ソリューション

- ・ 介護施設と老人ホーム
- ・ 超高層ビルと複合施設
- ・ 鉄道とトンネル
- ・ 住宅およびホテル
- ・ 工場

製品のオンデマンド

- ・ 消火設備・機器
- ・ 火災警報設備
- ・ 防災・防火材料、耐火製品
- ・ 冷凍空調設備
- ・ 高品質の製品

スマート防災

革新的なソリューション

- ・ 災害時の緊急対応
- ・ 防災
- ・ 減災

出展製品

- ・ 災害管理システム
- ・ 救助資機材
- ・ 避難設備
- ・ 非常時通信
- ・ 通報機器、放送設備
- ・ 個人装備品



アジア太平洋スマート防災サミット

ベトナム、フィリピン、タイ、ネパールの専門家や政府関係者と、災害に対する解決策を協議する場です。

◆お問い合わせ先

Kirstin.Wu@newera.messefrankfurt.com

+886 2 8729 1099 ext. 217

◆同時開催